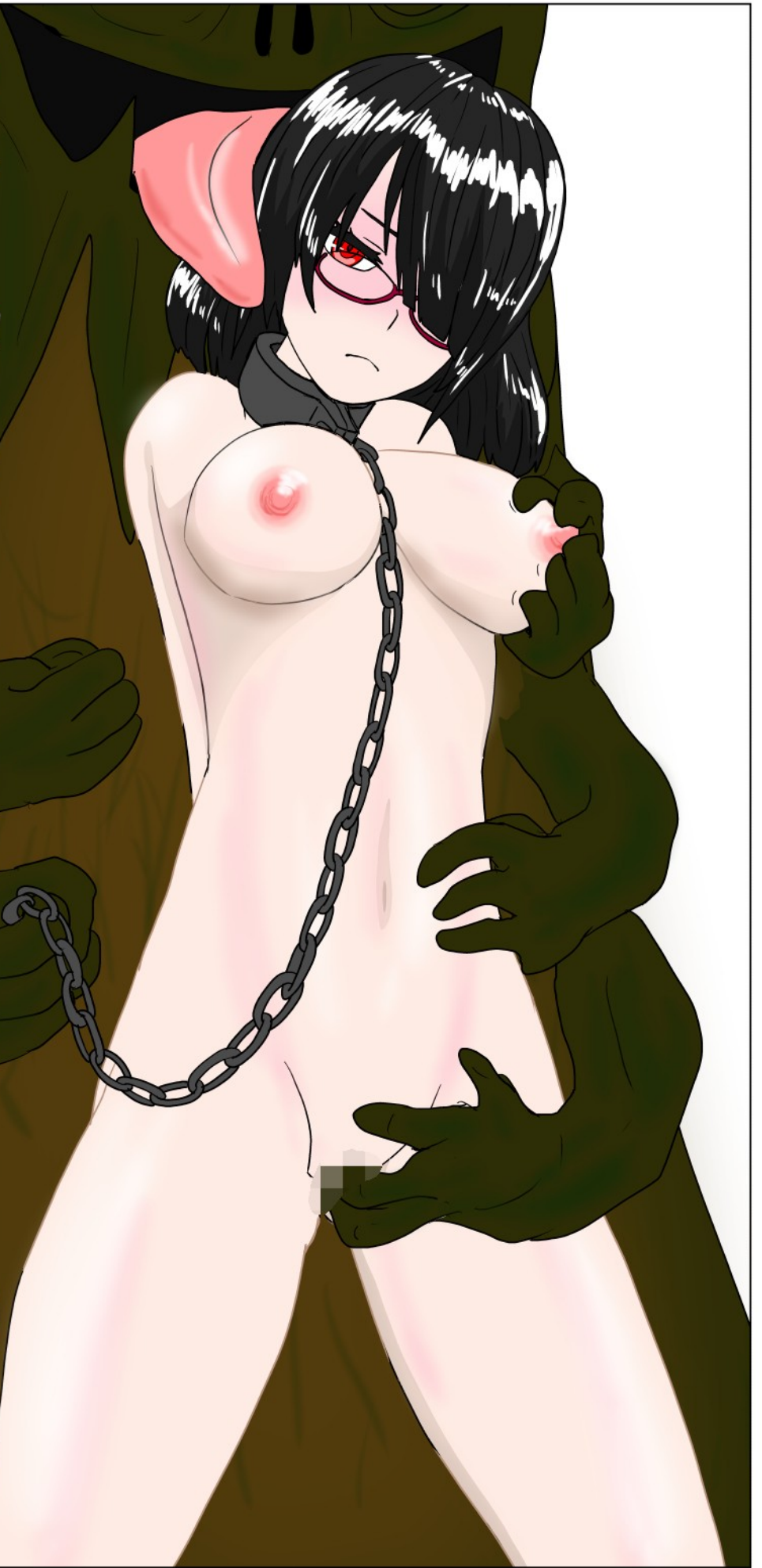
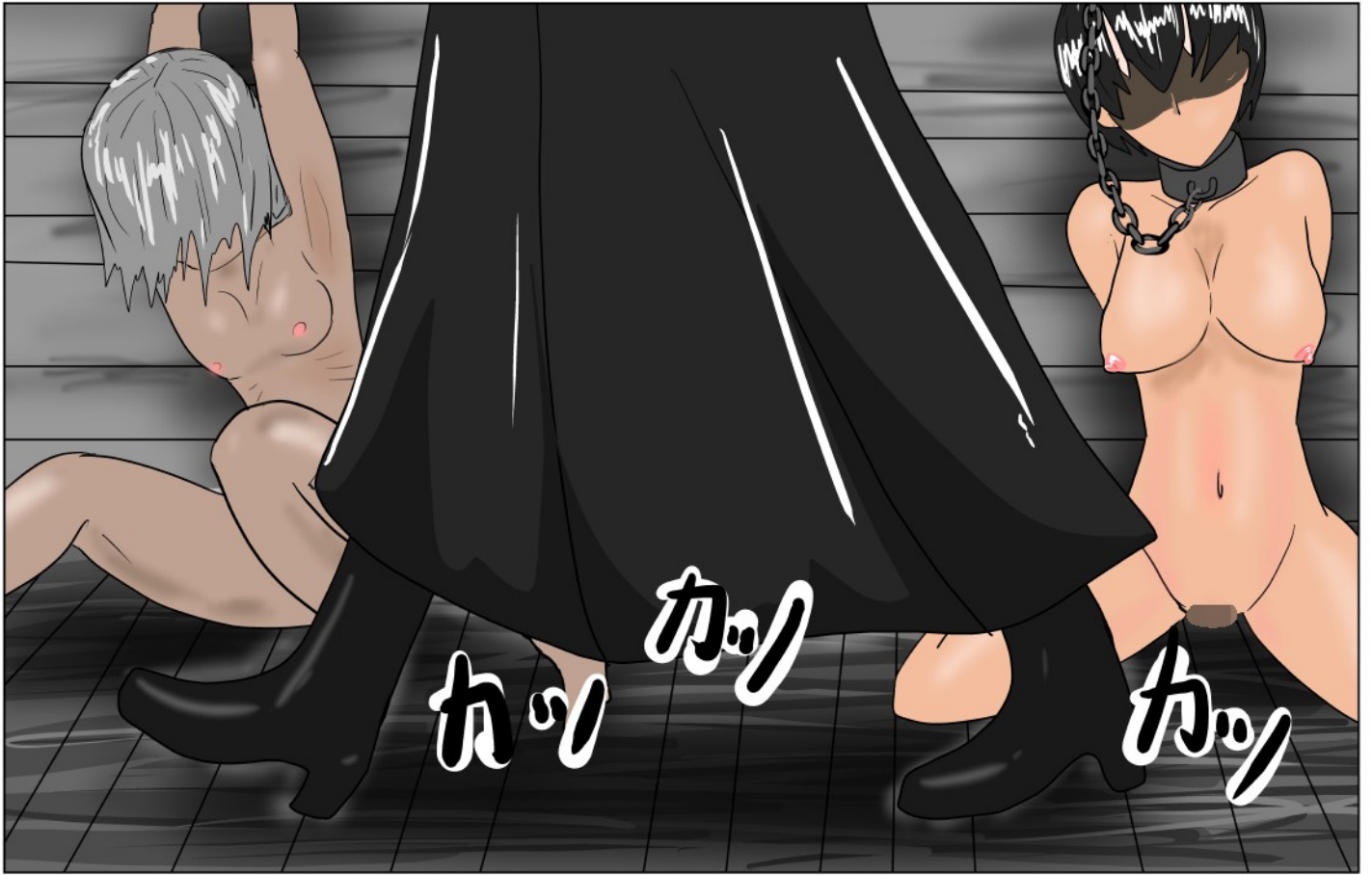


魔
女
墮
とし







ディアナ・マギカ

魔族殲滅、魔界征服を目指す魔術結社「星捧社」の急進派幹部。
魔族はもちろん、人族であっても敵対者を容赦なく
殺戮する姿から、「鮮血の魔女」と恐れられている。



うーん…

もう脳にまで到達してるのかあ…
思ったより早いなあ…

エルフはこの手の寄生虫に対する
耐性が高いはずなんだけど…



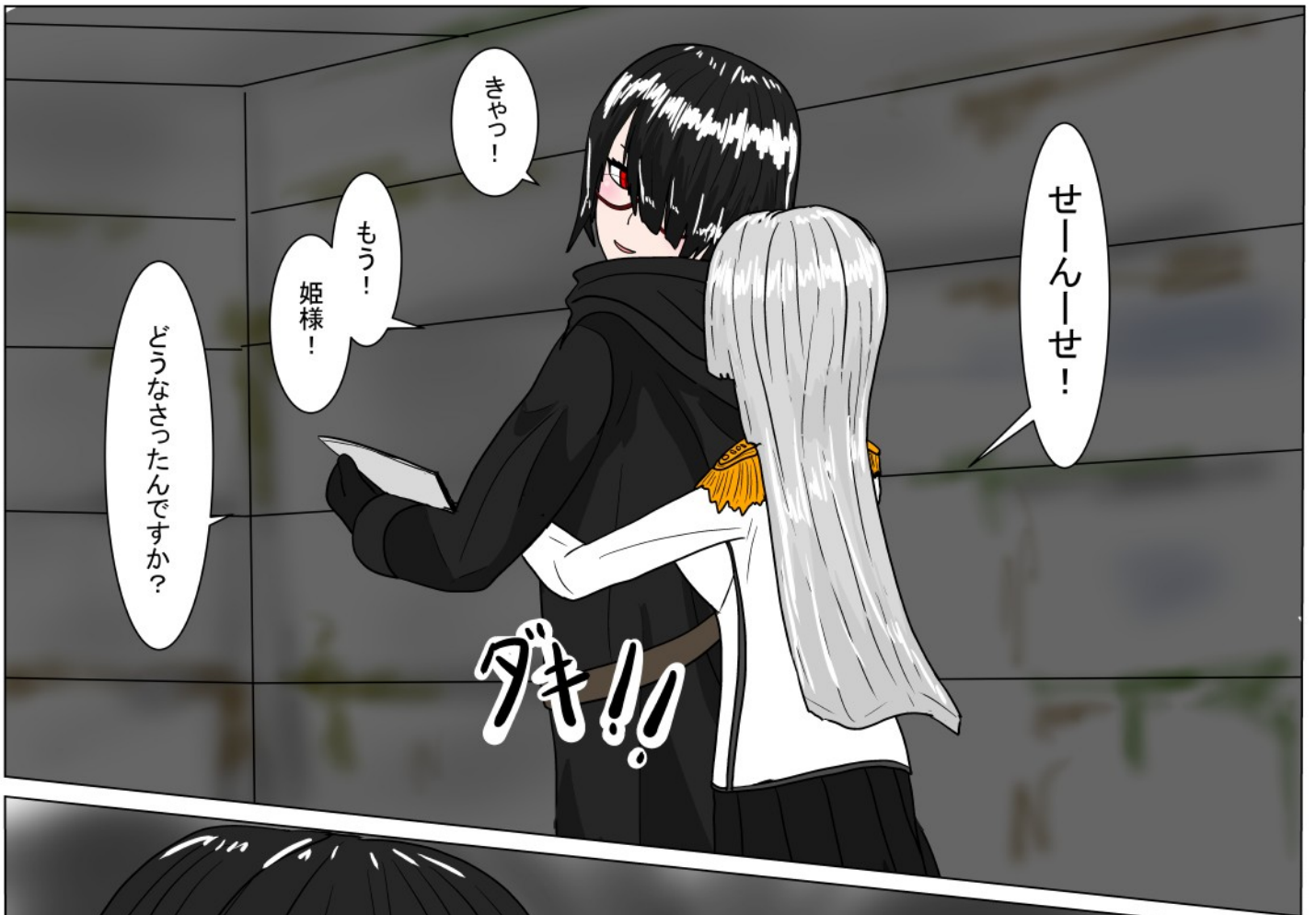
まあこの環境じゃ
免疫も落ちちやうか。

手足が無い分
体液量も少ないし…

もう少し密に
経過観察しないとダメかしらね…

かり
かり

かり
かり



どうなされたんですか？

もう！
姫様！

きやう！

せーんーせ！

ダキ！！



ふん、
姫様直々のお誘いとあっては
断れないですね。

今日は御一緒に食事でも
どうかと思います。

先生、少し働き過ぎですわ。



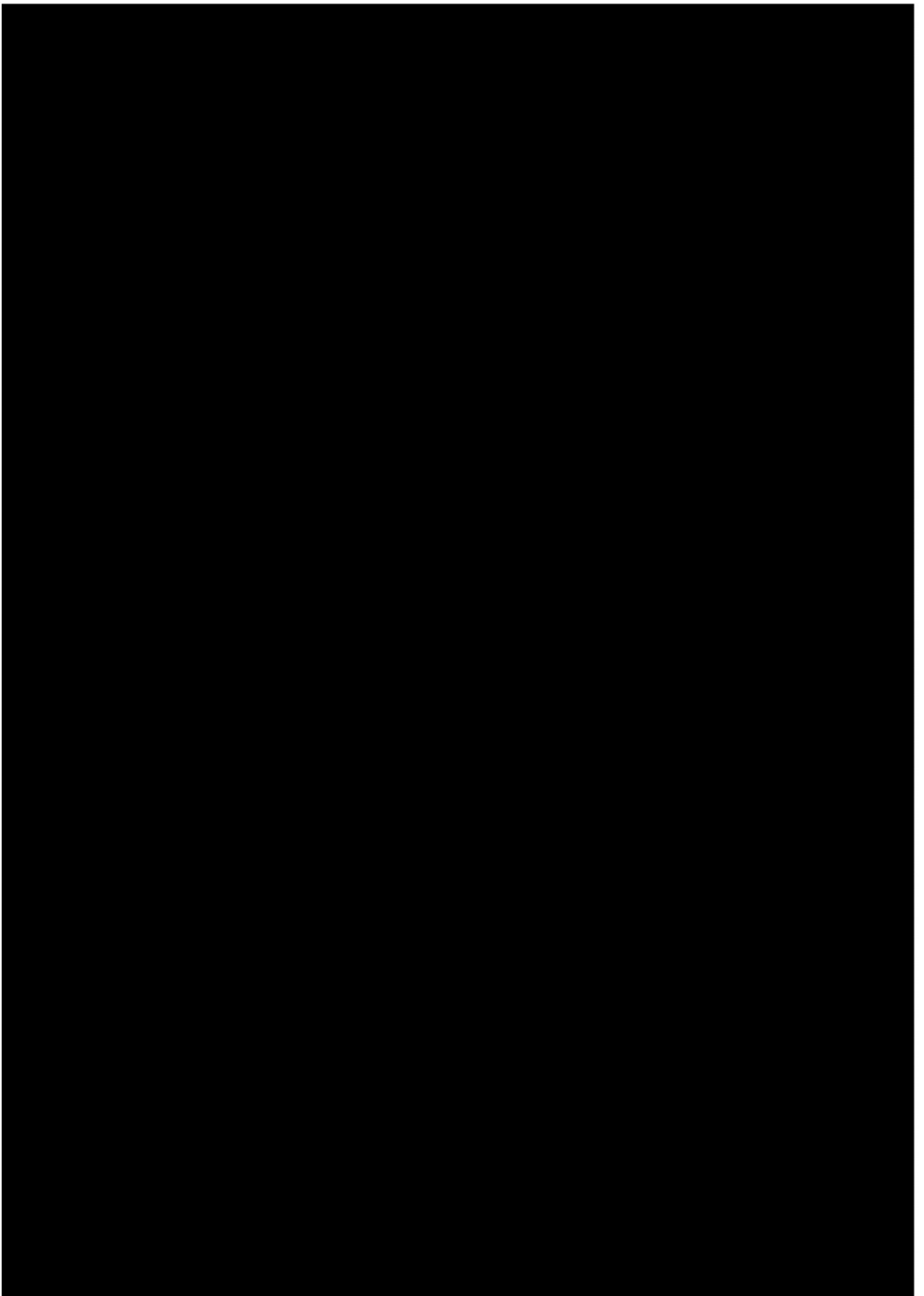
私また先生が魔族を倒した時の話、聞きたいです。

そうですね…

では、ダークエルフの暗殺部隊を
返り討ちにした時の話でもしましょうか。

ダークエルフは普通のエルフより
耐久力が高いので、
拷問が長く楽しめるんですよ。



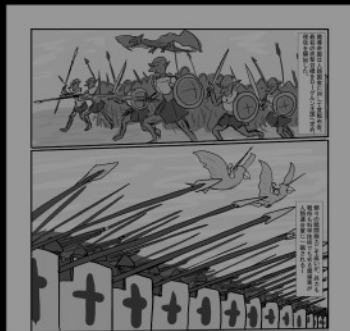


物語

魔界に隣接する人族の国「ローグレン王国」では、王が病に倒れて以降、王女と王子が政務を代行していた。彼らは魔界での魔族狩りを奨励し、国内では魔族たちへの迫害を強めていた。
ローグレン王国の王宮地下室では、魔族への拷問が大規模に行われており、王女と王子、王族付きの魔術師たちにより、大虐殺へと発展していた。

魔族たちは人類からの攻撃に苦しむ一方で、魔族同士の争いも激しく、人類側への有効な反撃が行えないまま、人類の魔界領域への侵入を許し続けていた。

そんな中、魔界の最深部で目覚めた1体の魔神が、魔界の有力魔族のほとんどを配下に収め、「魔導帝国」の建国を宣言した。

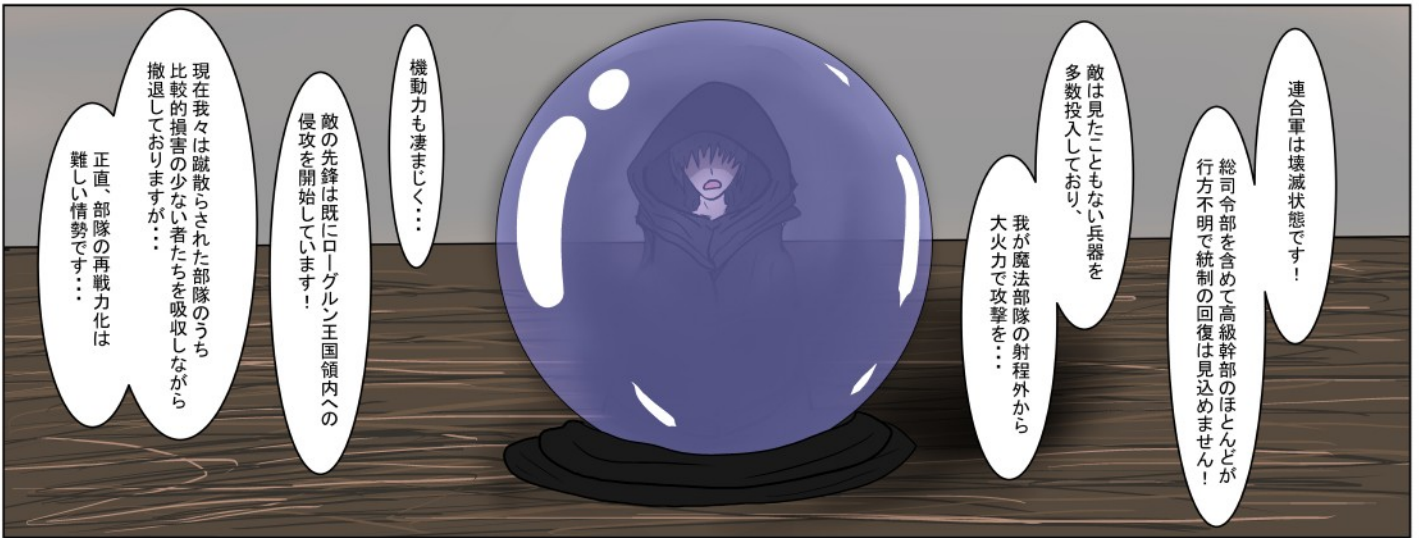


魔界の大半を手中に収めた魔導帝国は、人類国家の全てに魔族への迫害中止及び魔界への侵入停止を求めたが、ほとんどの人類国家はこれを無視する。

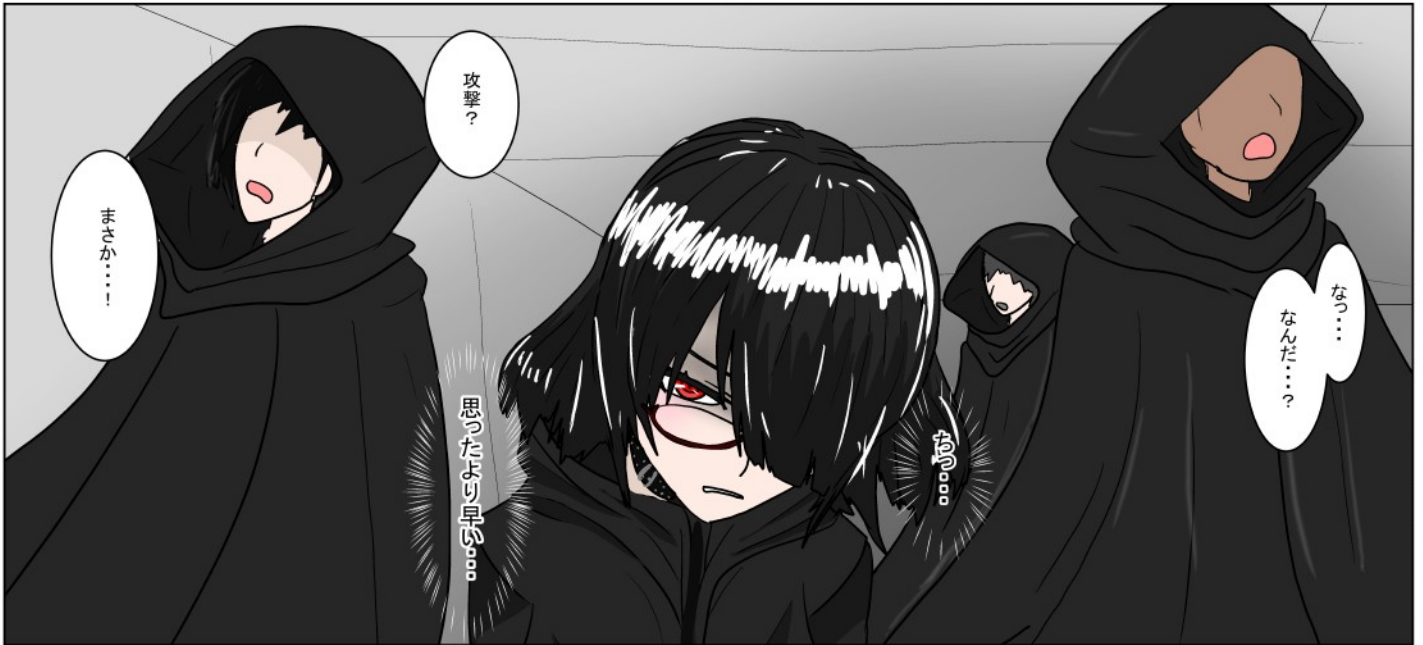
魔導帝国は敵対的な人類国家全てに対して宣戦を布告。ここに人魔大戦の火ふたが切つて落とされた。

人類は対魔族人類連合軍を組織して大軍で魔導帝国の攻撃を迎え撃つたが、魔導帝国は異世界から持ち込まれた機械兵器の数を運用し、さらに、いままで人類と敵対的ではなかった強力な魔人達が協同して魔導帝国側に参戦したことによって大敗北を喫することになった。

魔導帝国の最初の攻撃目標として直接侵攻を受けたローグレン王国は瞬く間に全土を制圧され、王都は直接攻撃の脅威にさらされることになる……









幼い...

もう顔も覚えていないかも...

温かい家庭...

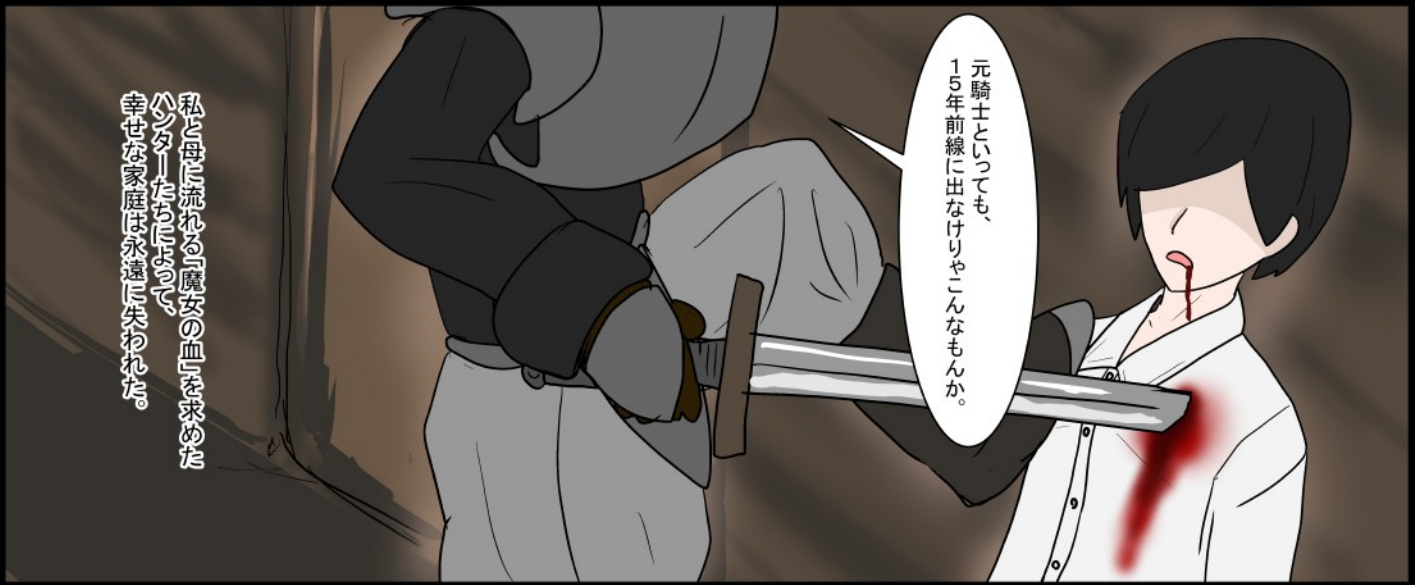


決して楽な暮らしが得られなかったが...

それでもあの頃の私は...

私たちの家庭は...
幸せだったのだ。

だけれどその幸せは、
あっけなく壊された。



元騎士といっても、
15年前線に出なけりやこんなもんか。

私と母に流れる「魔女の血」を求めた
ハンターたちによって、
幸せな家庭は永遠に失われた。



おい、母親もやっちゃったのか？

美人なのにもったいねえ

攻撃魔法の詠唱を始めたんだからしかたねえだろ。

やらなきゃ全員黒焦げにされてたぞ。

娘が無事なら依頼は問題ないだろ。



ほら、来な、嬢ちゃん。
新しいおウチに連れて行ってやるよ。

いや……！

離して……！

おいおいそんなに怖がるなよ。
おれたちはお前に酷いことしないぜ。

おれたちは……な。



ジャザバの旦那、ご注文通り、
魔女の血を持った娘ですぜ。

どうやら私の売却先は、
最初から決まっていたようだ。

全裸に剥かれ、
首輪と手枷で拘束した状態で、
私は「依頼主」の前に引き出された。



おや？
怯えているのかな？

大丈夫だよ、
安心しなさい。
私は君を傷つけたりするつもりはないよ。

何せ君は大切な大切な…



おお！
おお！素晴らしい！

確かに魔女の血の
強い力を感じる！

よくやった。
報酬は弾んでおくよ。

3対の腕と2対の足を持つ異形の怪物が、
私の家族を壊し、
それから私の人生そのものも
壊そうとしている張本人のようだ。

私の花嫁なのだから。

たっぷりかわいがって……

たっぷり子種を注いであげるからね。

良い仔をたくさん産んでおくれよ……



魔物に買われてから1週間後…

いとも簡単に私の処女は奪われた。

私の膣は1週間かけて徹底的に耕されていた。
しかしそれでも、
魔物の剛直は受け入れがたい苦痛と圧迫感で私を苛んだ。



前穴の処女を失ったその日のうちに、
アナルの処女もあっさり奪われた。
身震いするような異物感、
引き裂かれるような痛み、
内臓を押しつぶされて呼吸もままならず、
私は魔物の引き抜く動きに合わせて
酸素を求めて必死に喘いだ。





出来損ないは
味もいまいちだな。

ホリガッ
キガッ
ハキ
ゴッ

今度はもつと良い子を
産んでくれよ。

ホッ



魔物に屈服し、
諦めに支配されていた私の心へ、
その時、
別の感情が沸き上がった。

怒り

憎しみ

嫌悪

そして復讐……





燃え上がった感情は
私が生き抜くための力になった。

表面上は従順さを装い、
むしろ積極的に魔物に奉仕した。

3人目を出産したころには、
私に対する物理的束縛は
確実に緩んでいた。



周囲の目を盗んで
脱出のための道具を整えた。



武器を入手し、
それを与えられた個室に隠した。



そして夜……

私は脱出計画を実行に移した。

頼りない武器、
不十分な装備と準備、
稚拙な計画。。。

それでも実行した以上、
もはや後戻りなど出来ない。



捕まれば、
何をされるかわからない恐怖。

後ろを振り回せば、
足を止めてしまえば、
きつと体が動かなくなる。

ただ前へ、
少しでも前へ、
私は必死に夜の中を走り続けた。



おい！
なんだ！

どうしたの？

私は賭けに勝った。

魔界を探索中の
冒険者パーティーに救出された。

彼らのおかげで
私は人間世界に戻ることができたのだ。





古い親戚を頼って
勉強を続け、
魔術の知識を身につけ、
実践能力を鍛えていった。



母が残してくれた
「魔女の血」は、
人間世界に戻った私を
大いに助けてくれた。



星捧社では魔族排斥の急先鋒として
多数の戦闘要員をまとめる幹部として
活躍する。



そして魔族と戦うため、
反魔族を掲げる秘密結社「星捧社」の「員」になった。



大国の軍事顧問として
国防政策の中枢にも
干渉しうる立場になった。

ついに魔界に隣接する軍事国家
「ローグレン王国」に取り入り、
病に伏せる王に代わって
国政を担う王妃と王子の
教育や政務の補佐を行うまでになっていた。

魔族殲滅という目標のため、
あらゆるものを利用して
自身の魔力と権力を高め、
邪魔するものは
魔族、人間を問わず血祭りにあげた。

いつしか私は、敵対者たちからは
「鮮血の魔女」の異名で恐れられる
強大な魔女になっていた。

私は、私の家族と、子供たちの命を踏みにじった
魔族たちへの復讐を、確実に前進させていった。





拘束されて

これは……

う……

眠っていたのか……

ん……
夢……



?!

痛むところなど
ありませんか？

「気分はどうですか？」

「おや、ふふふやくお目覚めですか。」

こんにちは。

「鮮血の魔女」
ディアナ・マギカさん。

あなたのようなご高名な方を
ここにお招き出来て、
大変うれしく思います。

私の方の自己紹介は
必要ですか？

闇の魔人、ネヴィル：

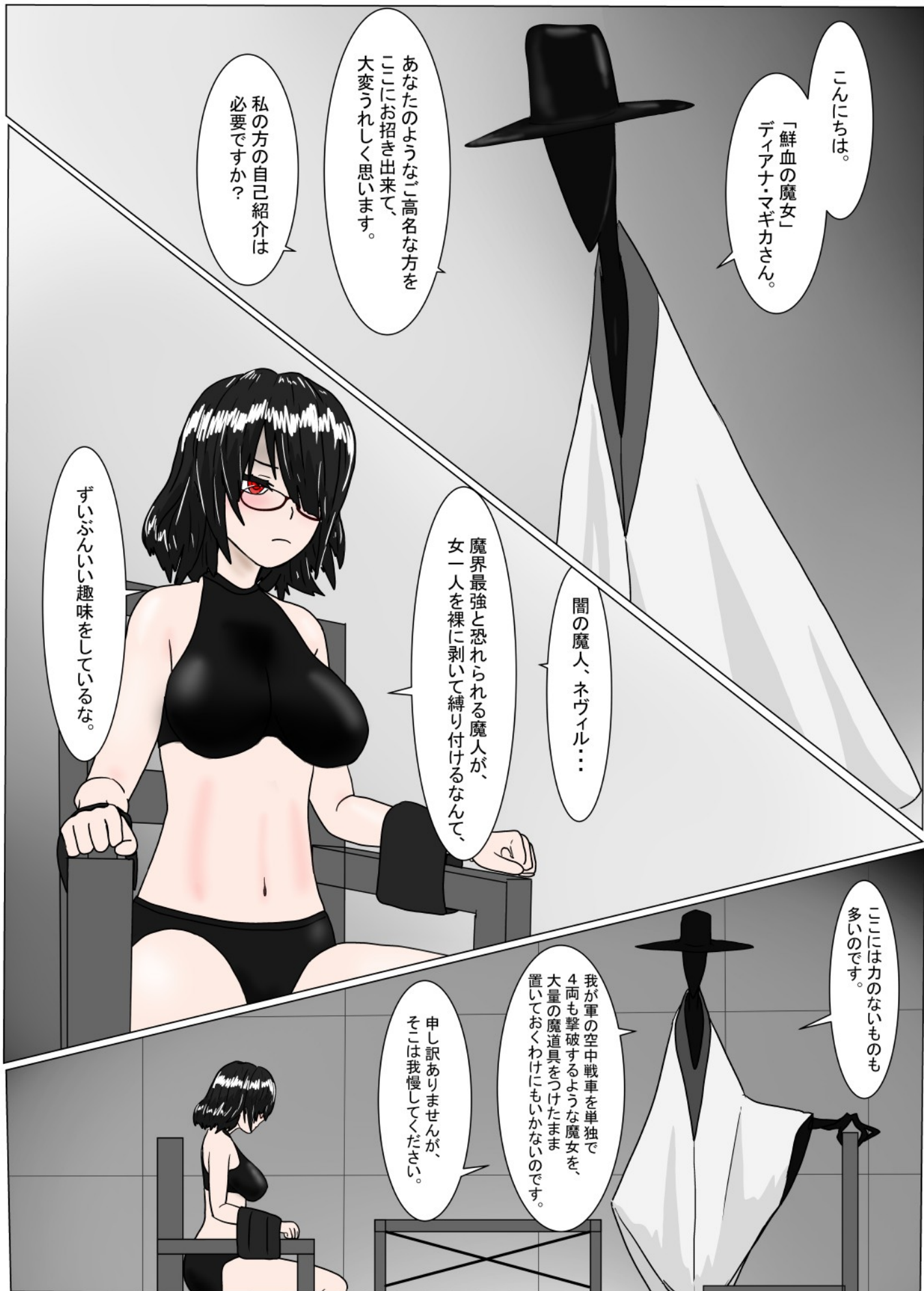
魔界最強と恐れられる魔人が、
女一人を裸に剥いて縛り付けるなんて、

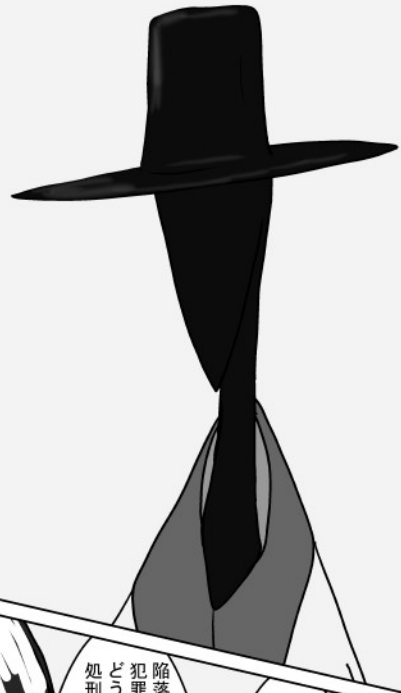
ずいぶんいい趣味をしているな。

ここには力のないものも
多いのです。

我が軍の空中戦車を単独で
4両も撃破するような魔女を、
大量の魔道具をつけたまま
置いておくわけにもいかないのです。

申し訳ありませんが、
そこは我慢してください。





私も忙しい身なので
早速本題に入りますが…

ディアナさん、
あなた、我が魔導帝国のために
働く気はありませんか？

現状ですと、あなたは
魔族迫害の中心人物として、
戦争法廷でその罪を裁かれる予定です。

陥落したローグレン王国からは
犯罪の証拠が続々と届いているのでね、
どうも最悪目に見ても、あなたがもっとも残酷な方法で
処刑されるのは確実な情勢です。

しかし一方で、我々はあなたの能力と頭脳を
非常に高く評価しています。

また、魔王様はあなたの「過去」について
とても悲しみ、同情しておりまして…
出来ることならば救ってやりたいとおっしゃっております。

幸い、ローグレン王国で行われた残虐行為については、
そのすべてをあなたが教育してコントロールしていた
王妃と王子に罪をかぶせてしまつてくれます。

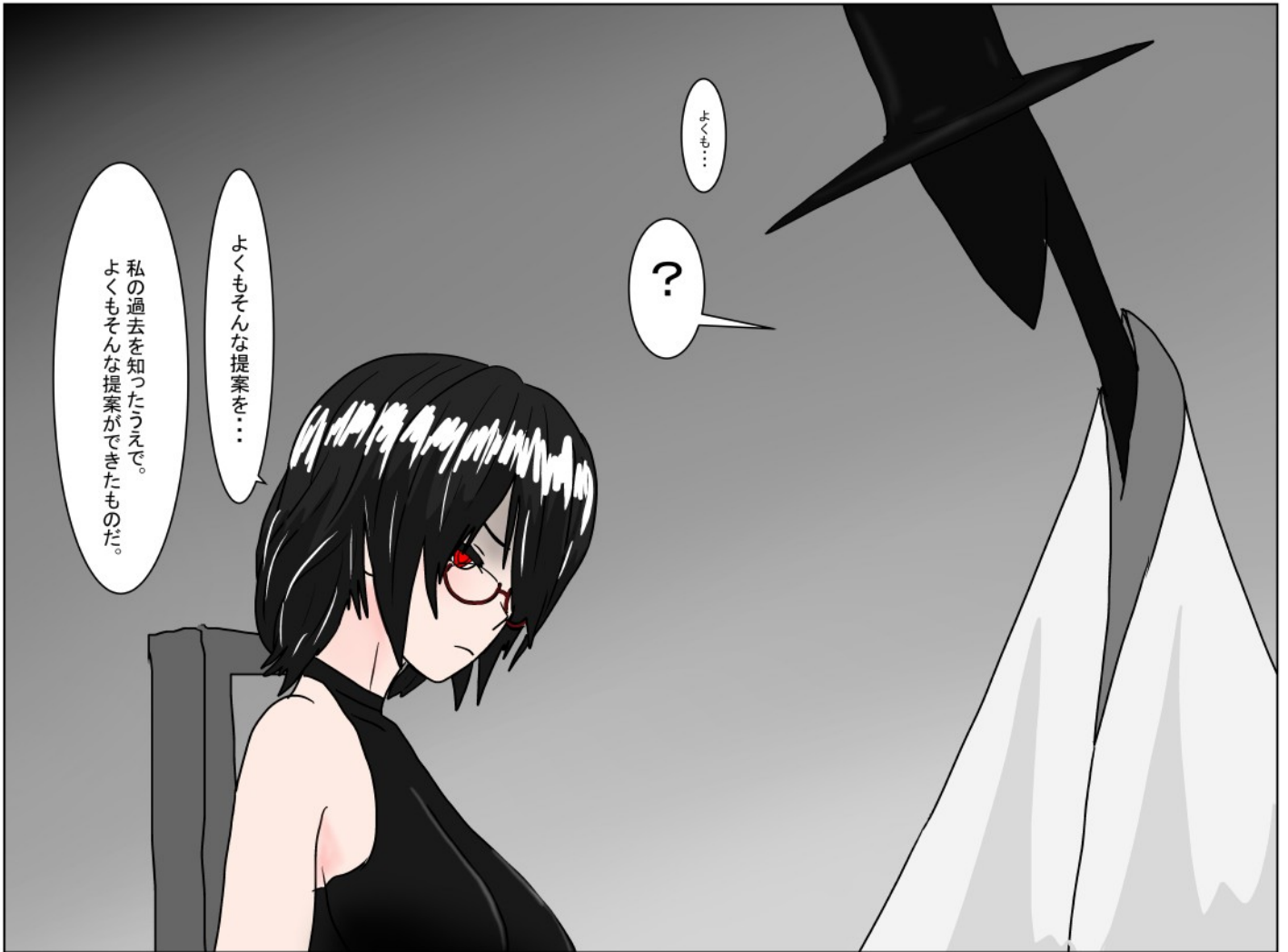
人魔対立を煽ったローグレンの王族は処断され、
あなたは大手を振って魔導帝国に幹部として迎え入れられる。

良いシナリオだと思いませんか？

あなたにぜひとも手伝っていただきたい
仕事もあるんですよ。



これを見てください。



私の過去を知ったうえで、
よくもそんな提案ができたものだ。

よくもそんな提案を...

よくも...

?



私はお前たち魔族が
大っ嫌いだ。

心の底から憎んでいる。

例えこの身が八つ裂きにされようと、
いかなる辱めを受けようと、

私が貴様らに協力することは
絶対にありえない！

補足しておきますが…

我々は独力でも要塞攻略が可能です。

この提案はあくまでも
あなたと、要塞を守る人々を
無駄に傷つけないための
温情である、と理解していただきたい。



はん

何が温情だ。

傷つけないのは
自分たちの兵士だろう？

東側諸国は質・量ともに巨大な
軍事大国ばかりだ。

要塞の突破で兵士をすり減らすことを
恐れての提案だな。



せいぜい要塞で大損害を出せばいい。

貴様らが大陸中央部で
小国をいくつか滅ぼそうとも、

最後に勝利するのは人類だ！

交渉は決裂ですか…

まあ、私も1度でまとまるとは
思っていません。

要塞攻略の開始には
まだ時間がかかります。

ゆっくりと説得させて
いただきますよう





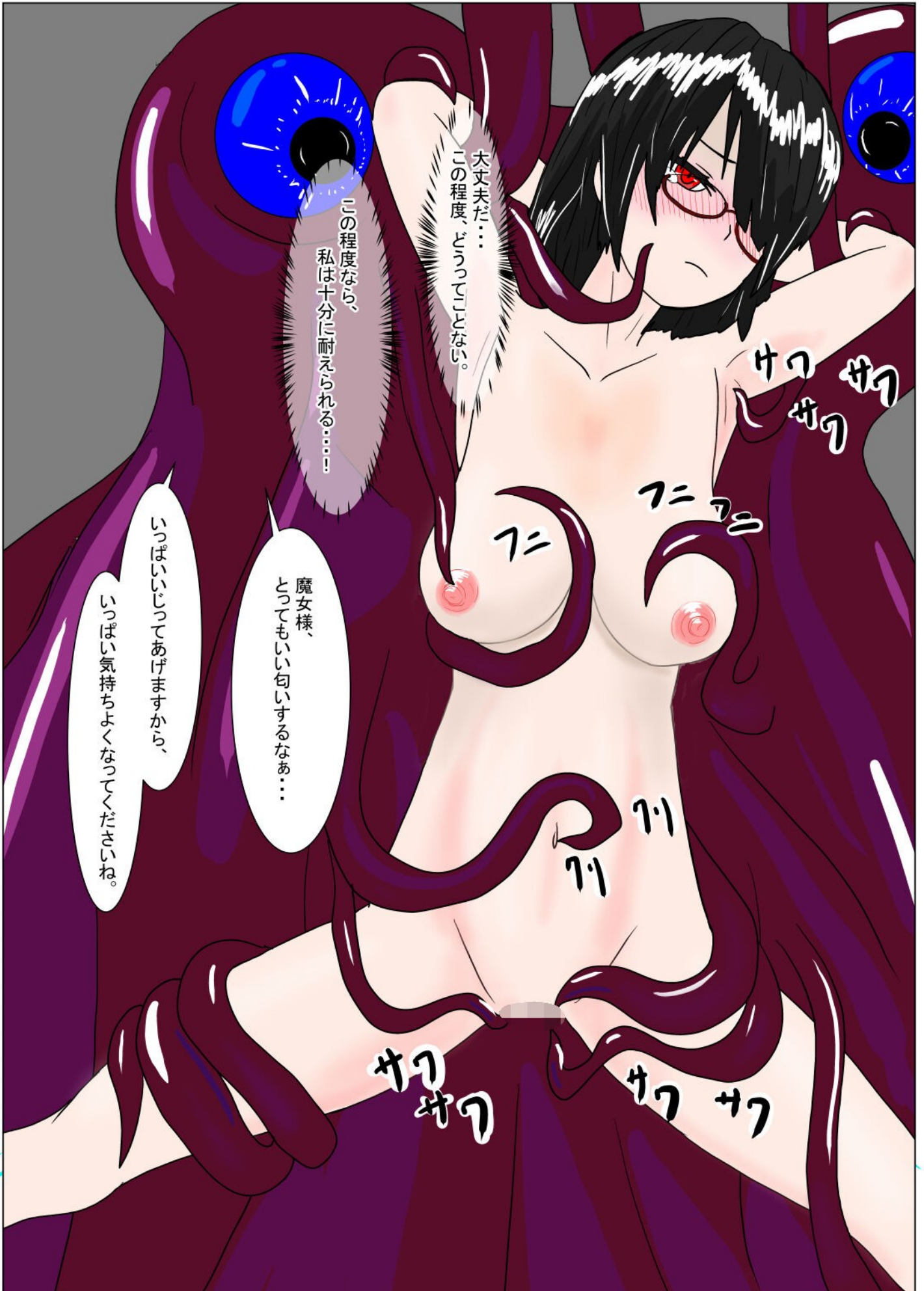
これが説得か…

魔族が考えることはいつも同じで
芸がないな。

それだけ有効な方法だということです。

大切な方です。
しっかりお願いしますね。

はい。
お任せを。



大丈夫だ…
この程度、どうってことない。

この程度なら、
私は十分に耐えられる……

いっばい気持ちよくなってくださいね。

魔女様、
とってもいい匂いするなあ……

いっばいさっさとあげますから、



ずいぶん体の中が汚いから、
しっかり掃除してあげますね。

魔女様はあまり健康的な
生活をしてなかったのかな？

がっ
ぶっぼっ
げっぼっ
ゴッ
ギョッ
ギョッ



はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

大丈夫だ...

大丈夫だ...

この程度なら...

私は...



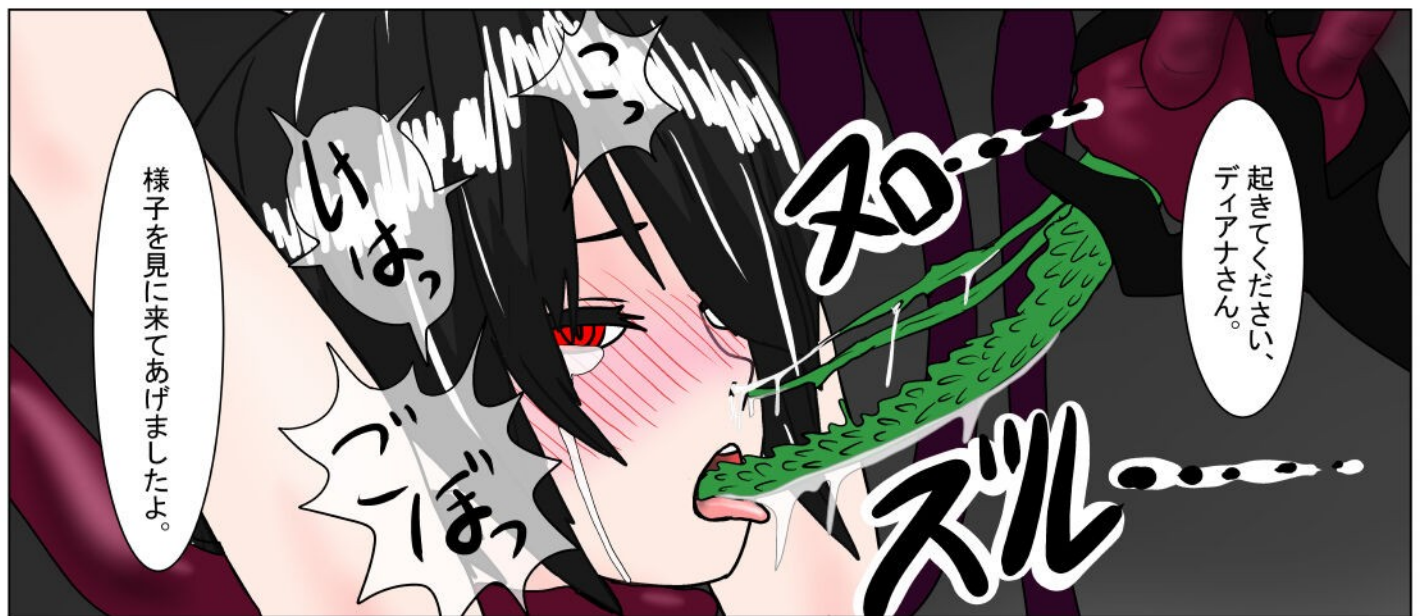
1か月後。。。

ふー……

ふー……

ふー……

ふー……



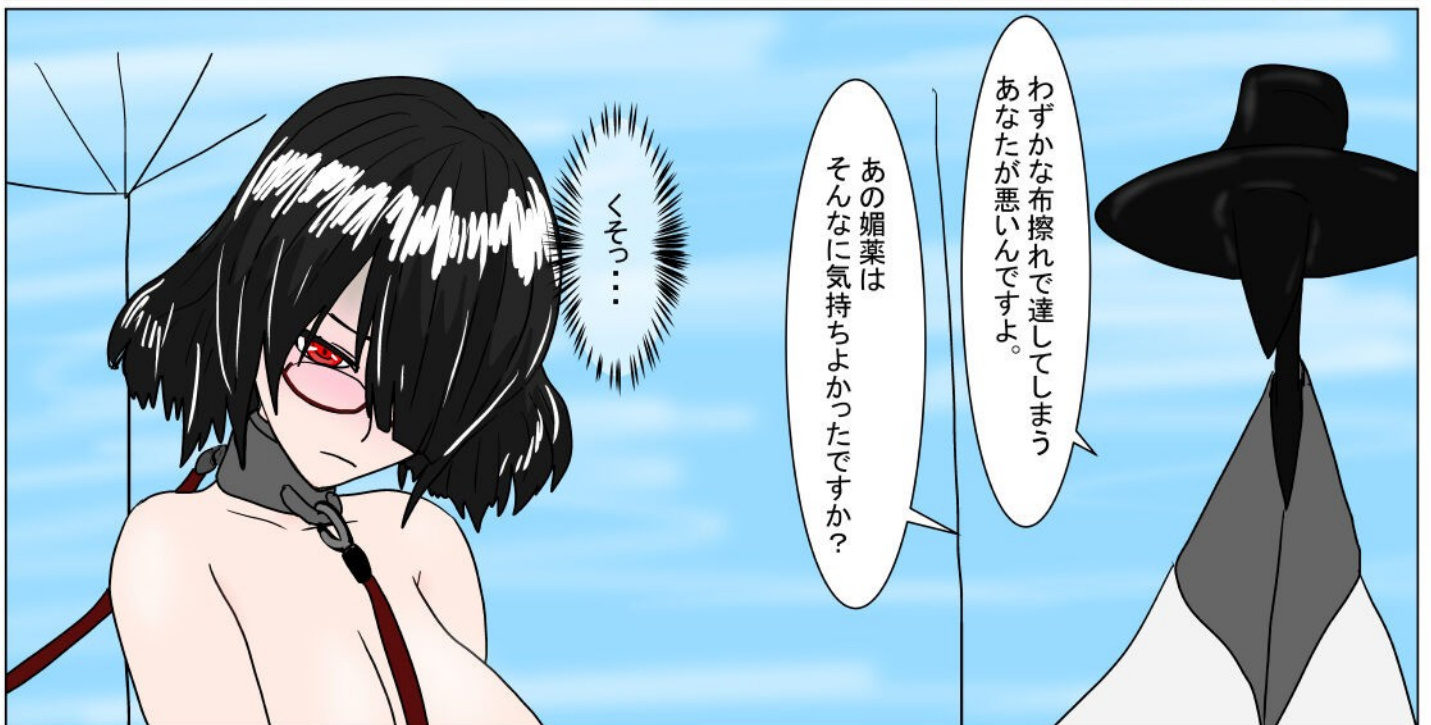
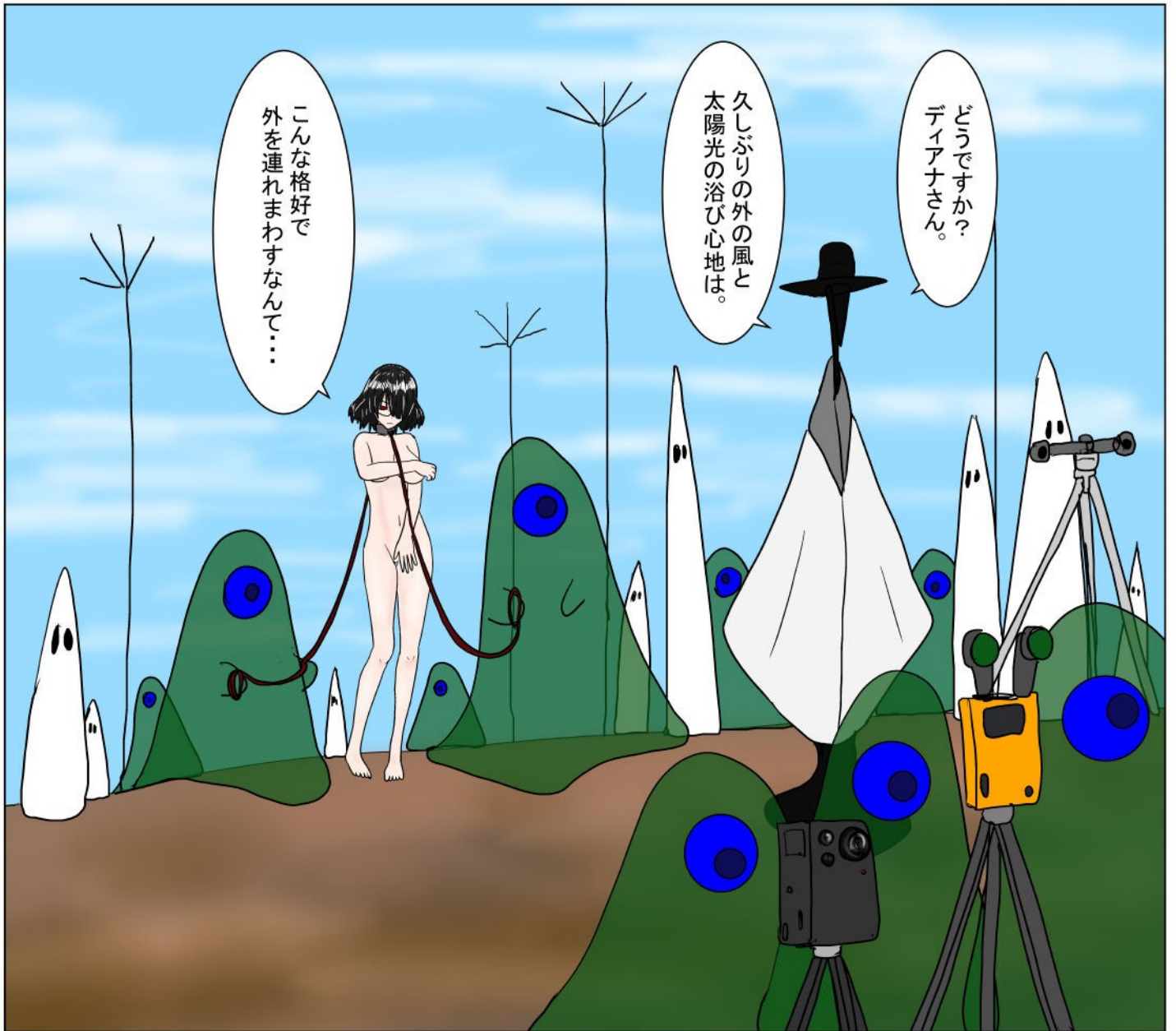
様子を見に来てあげましたよ。

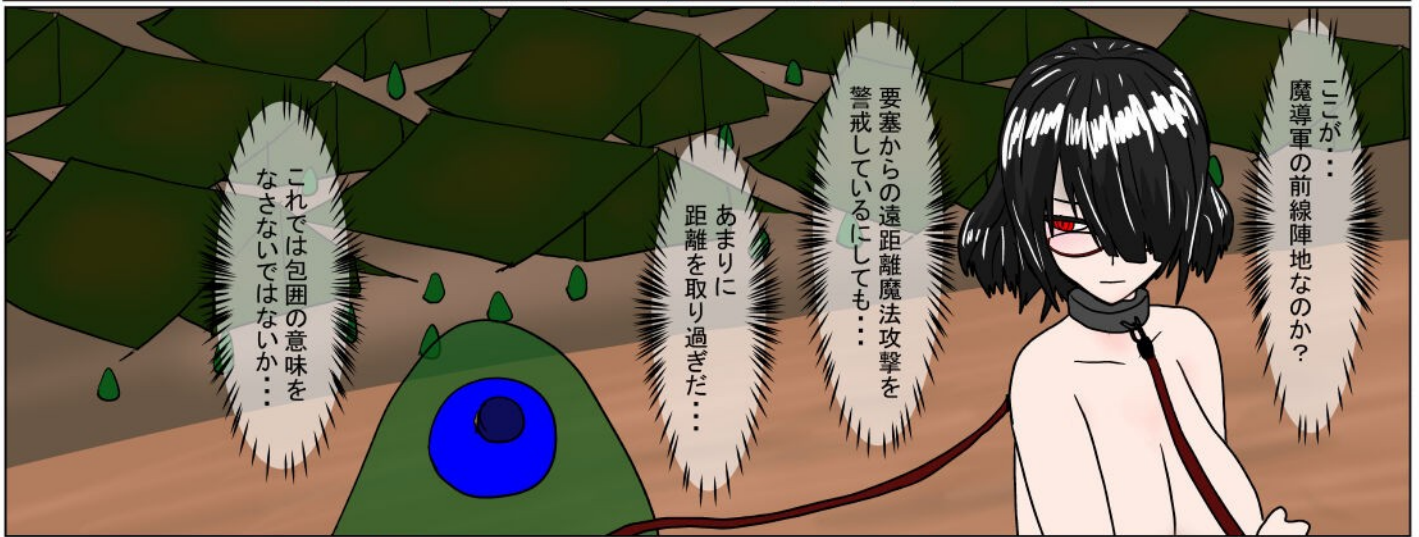
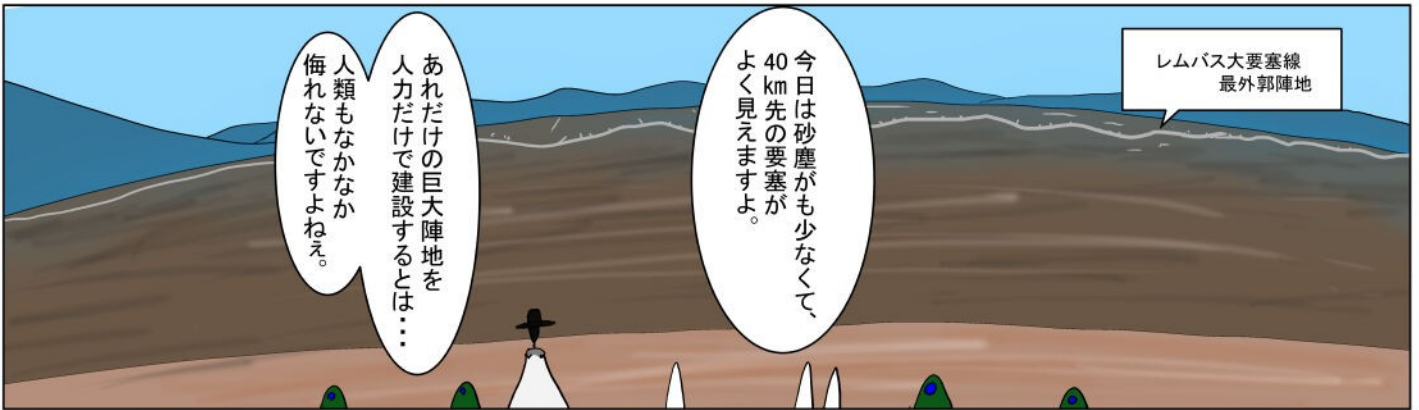
いっはっ
ぐっはっ

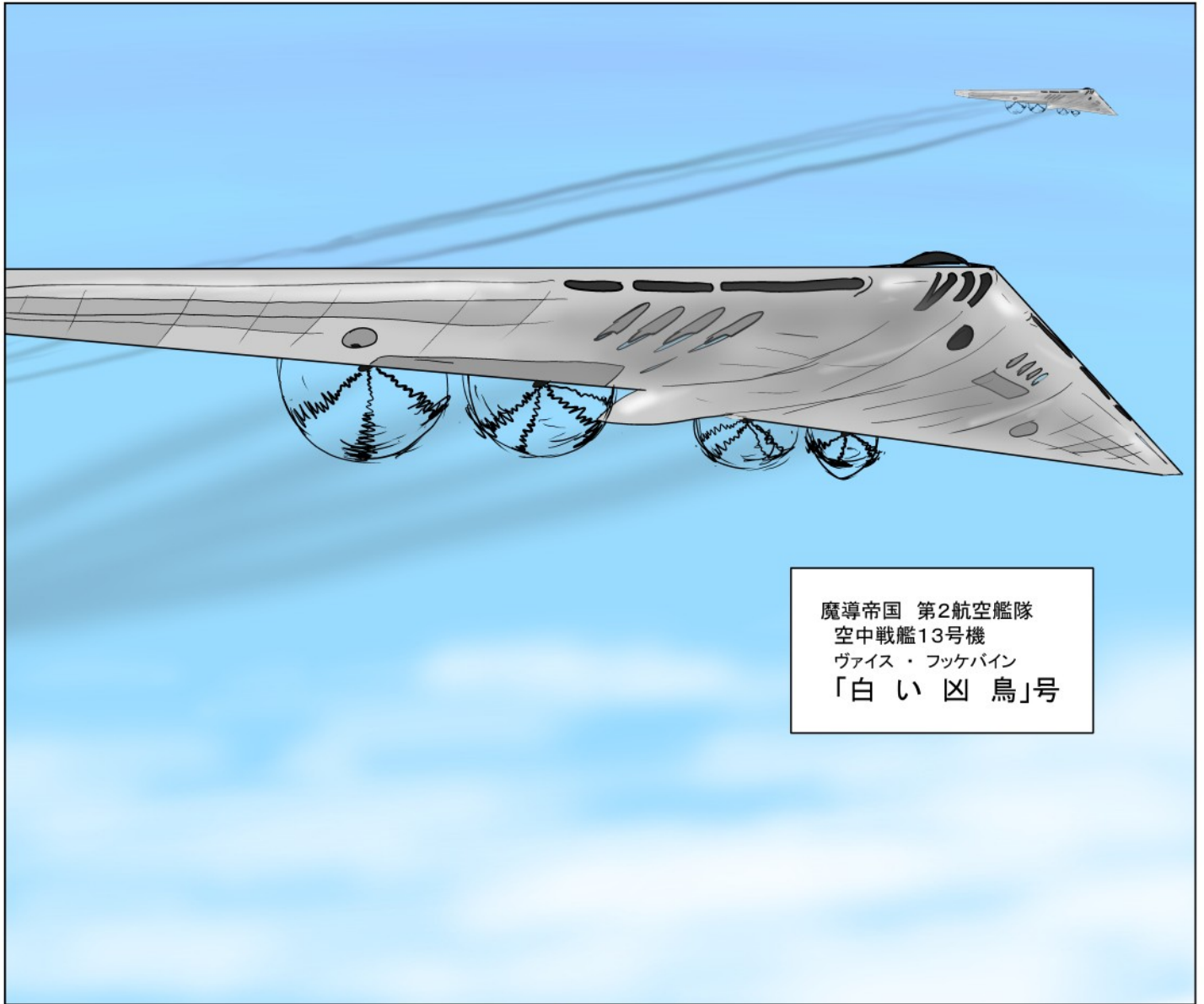
ズル

起きてください、
ディアナさん。









魔導帝国 第2航空艦隊
空中戦艦13号機
ヴァイス・フッケバイン
「白い凶鳥」号



目標上空に
対空脅威なし!

目標まで4分!

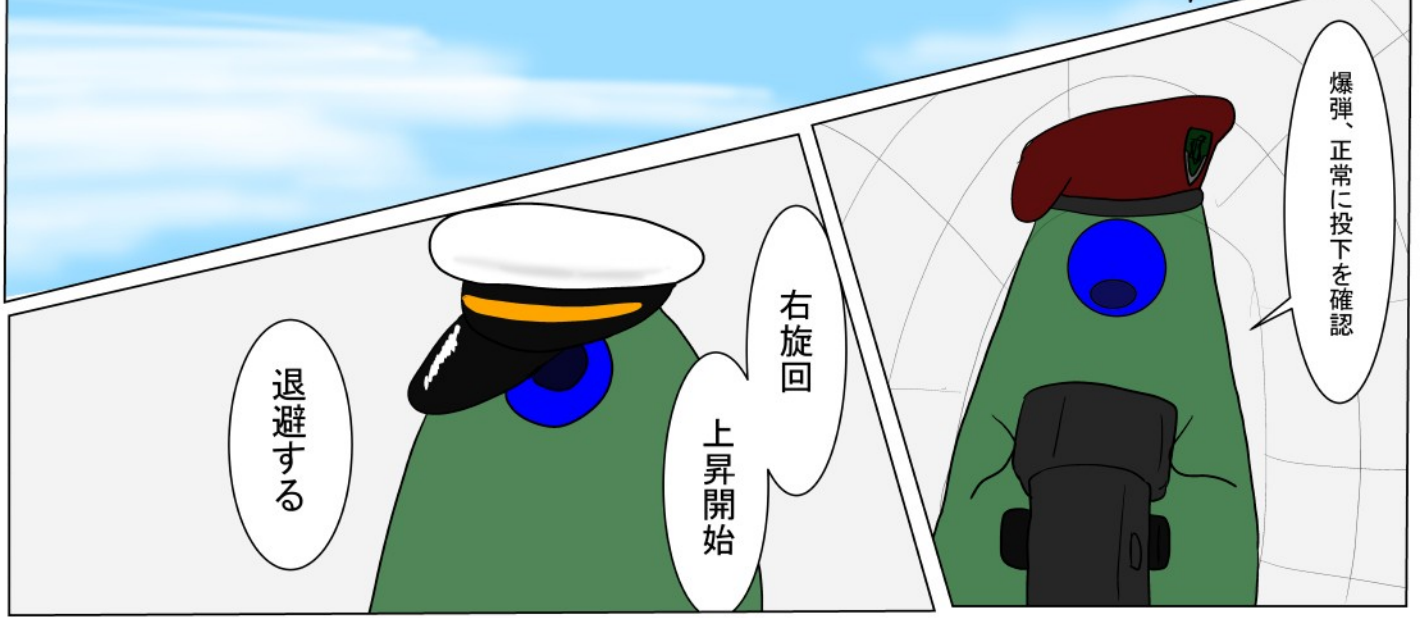
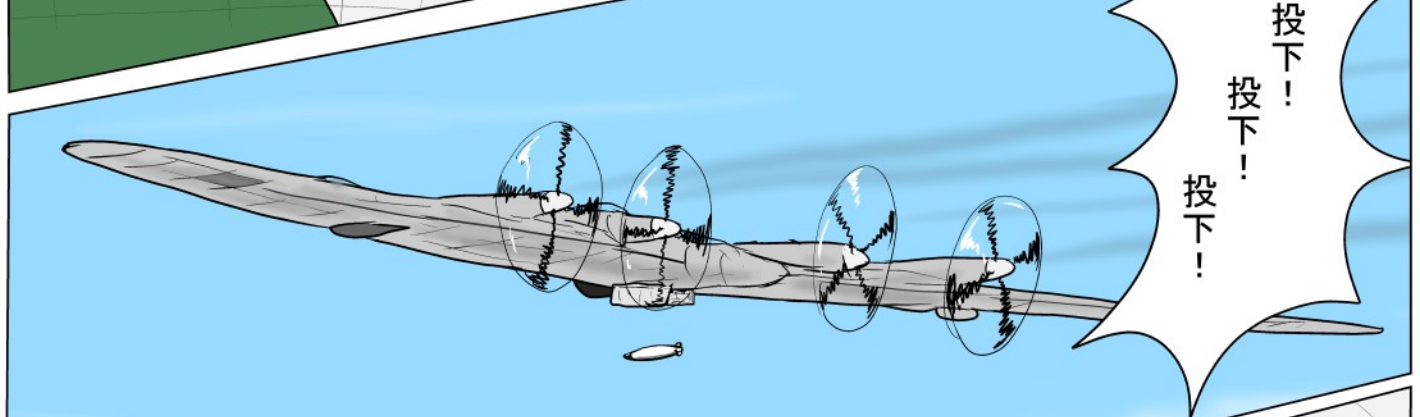
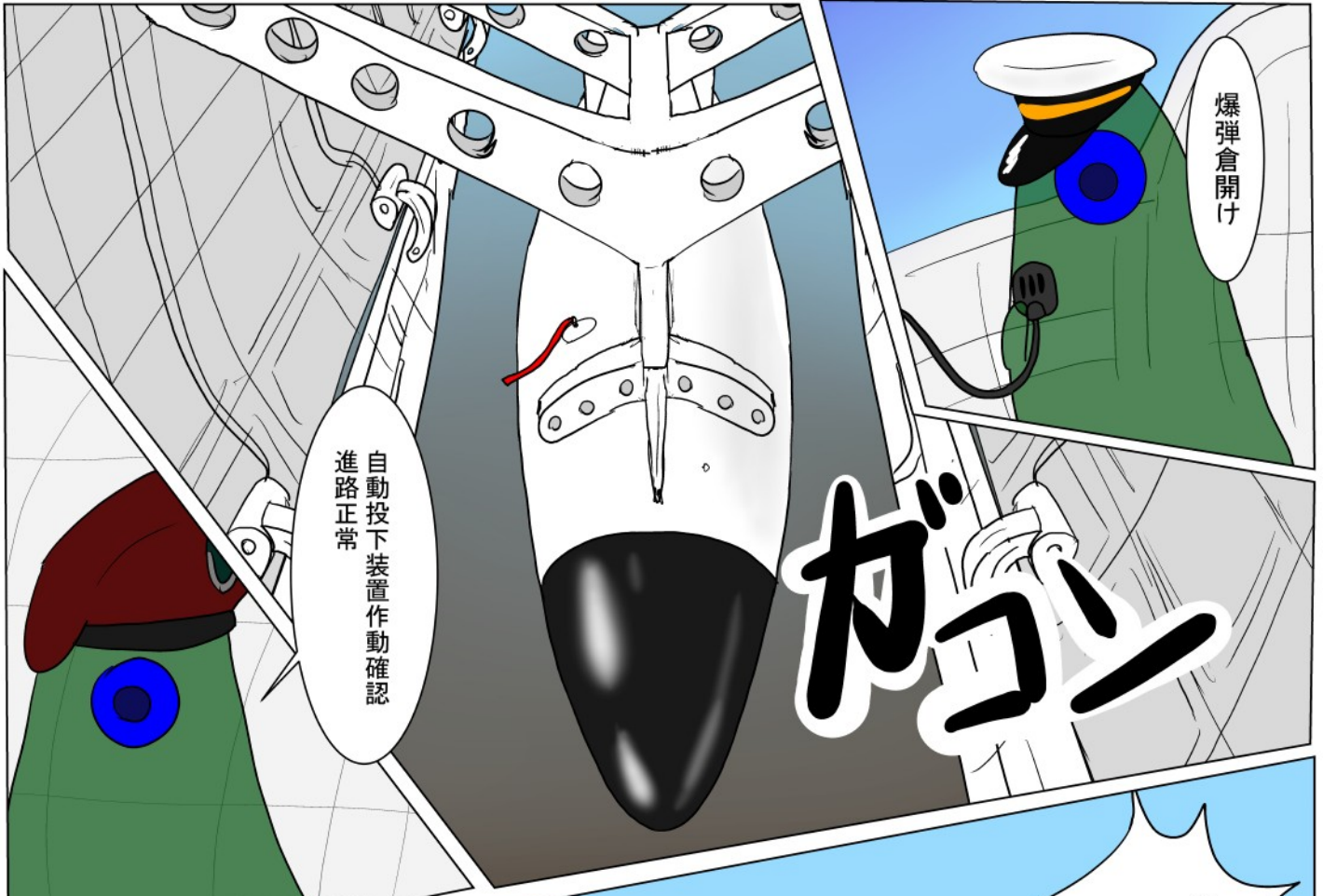
よーそろー

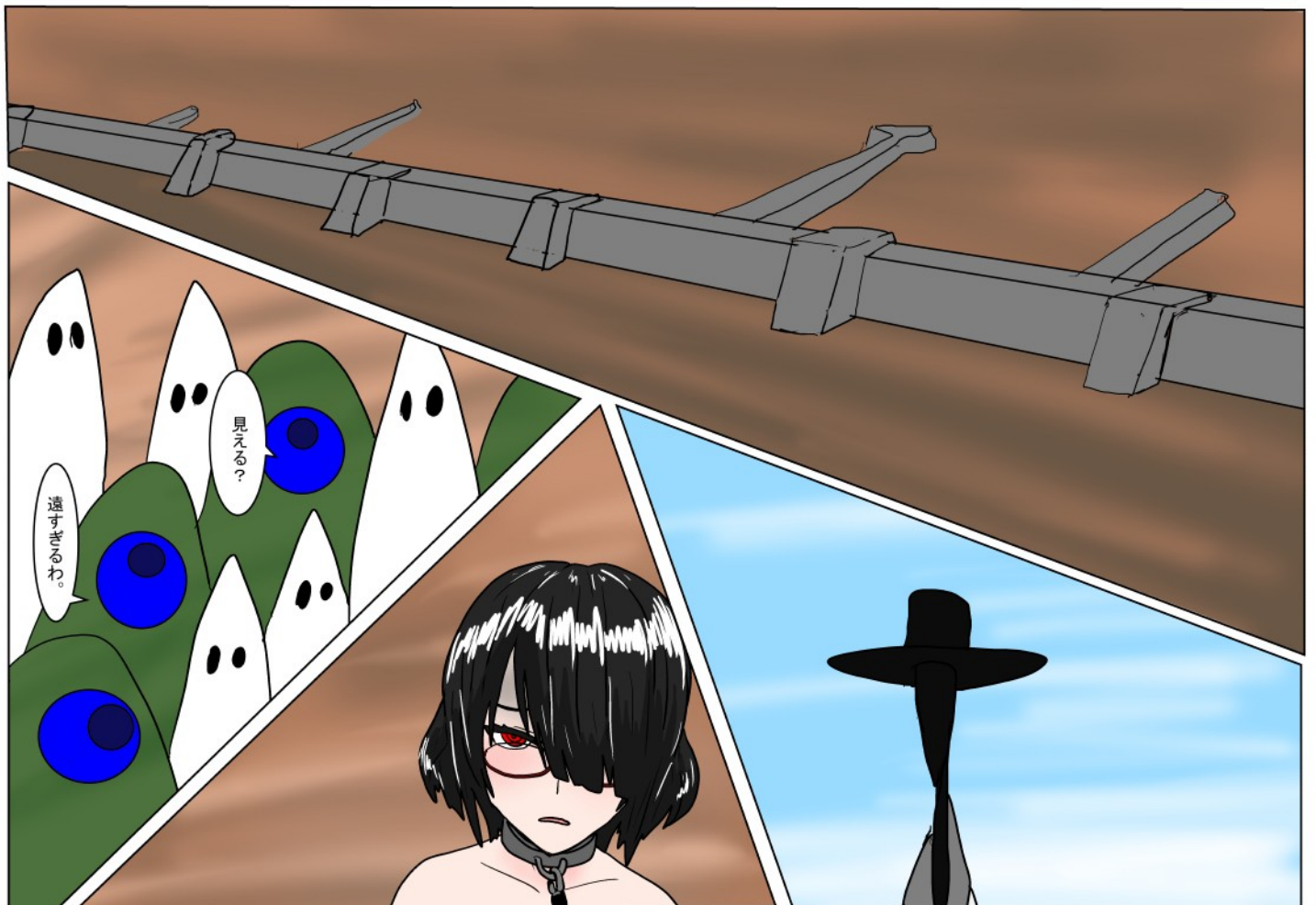
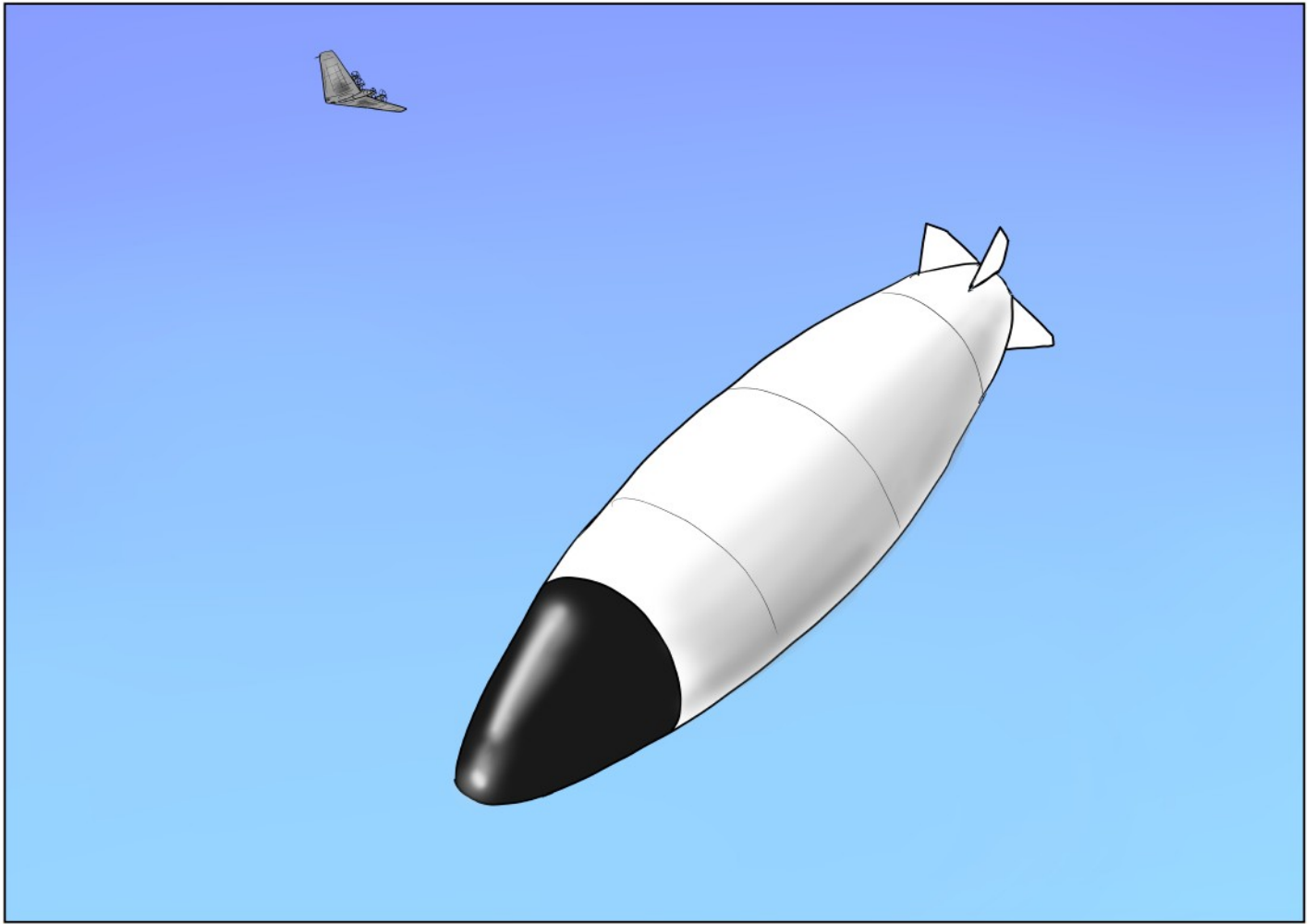
方位、2-9-8

方位、2-9-8、最大戦速。

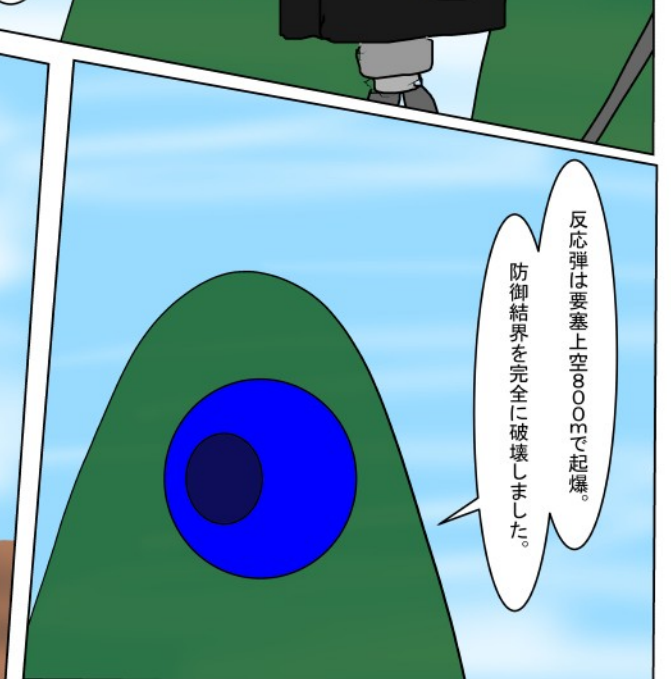
よろしい、
爆撃コースに侵入する。

機長!
作戦開始コードを受信しました!











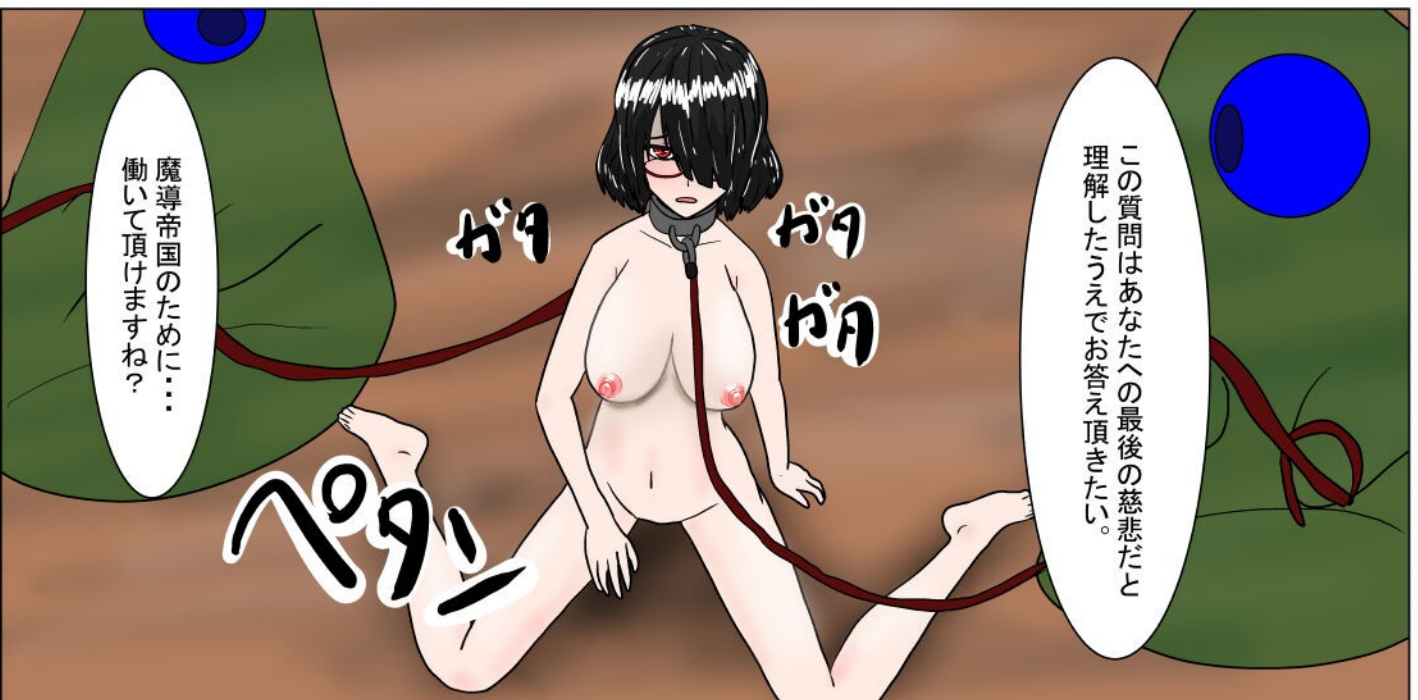
さて、ディアナさん。

これで我々の力が
どれほどのものか分ったでしょう。

あなたへの提案が、
温情であるということも…

理解して頂けたかと
思います。

グアグアグアグア

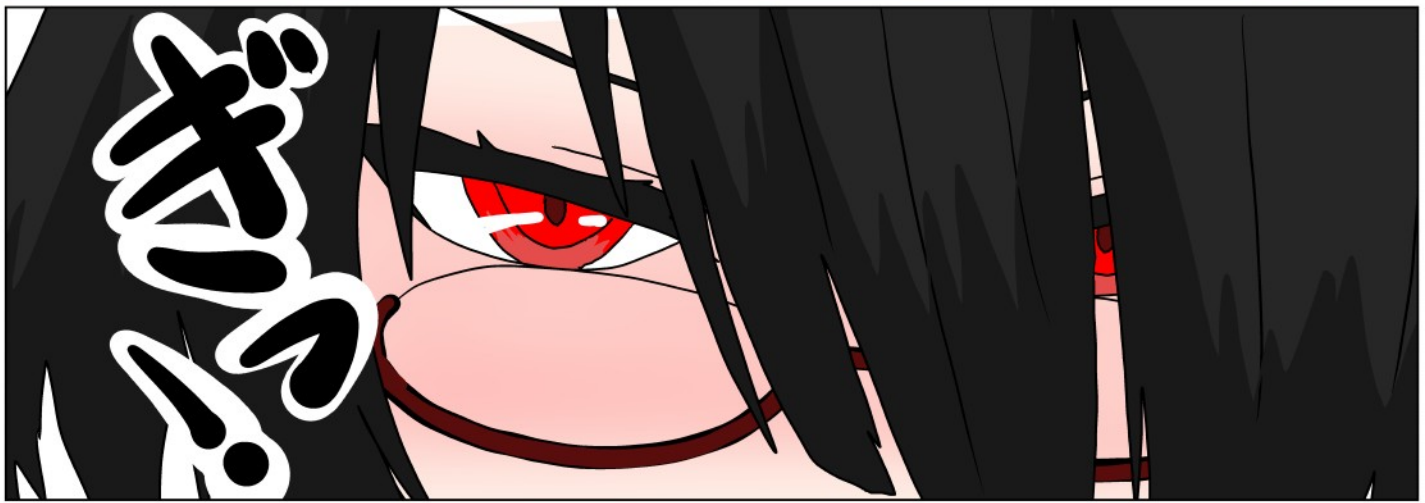


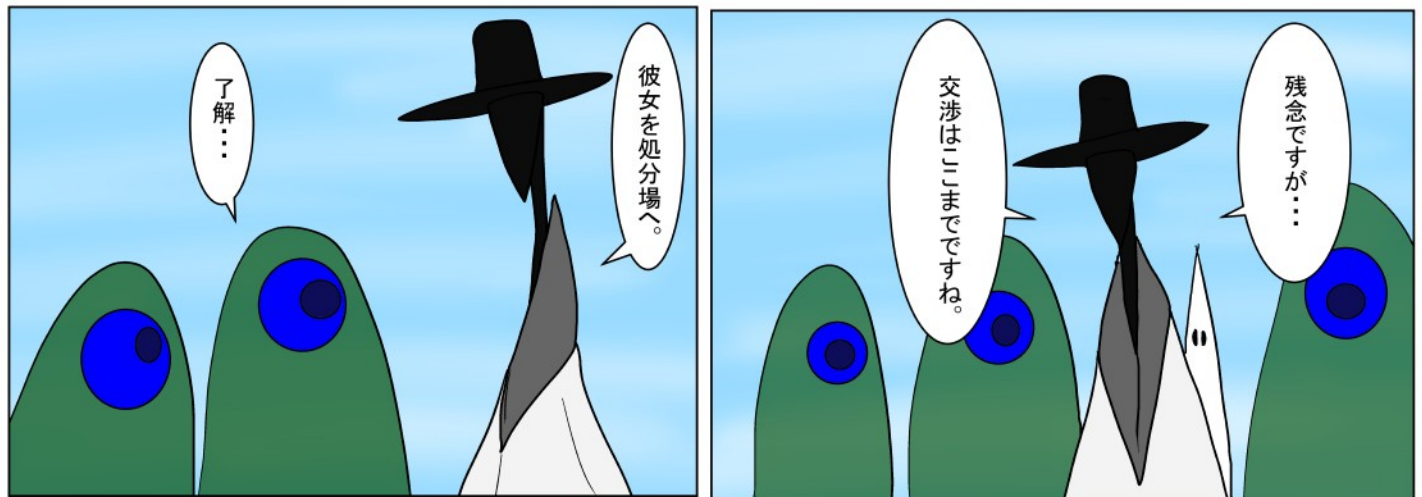
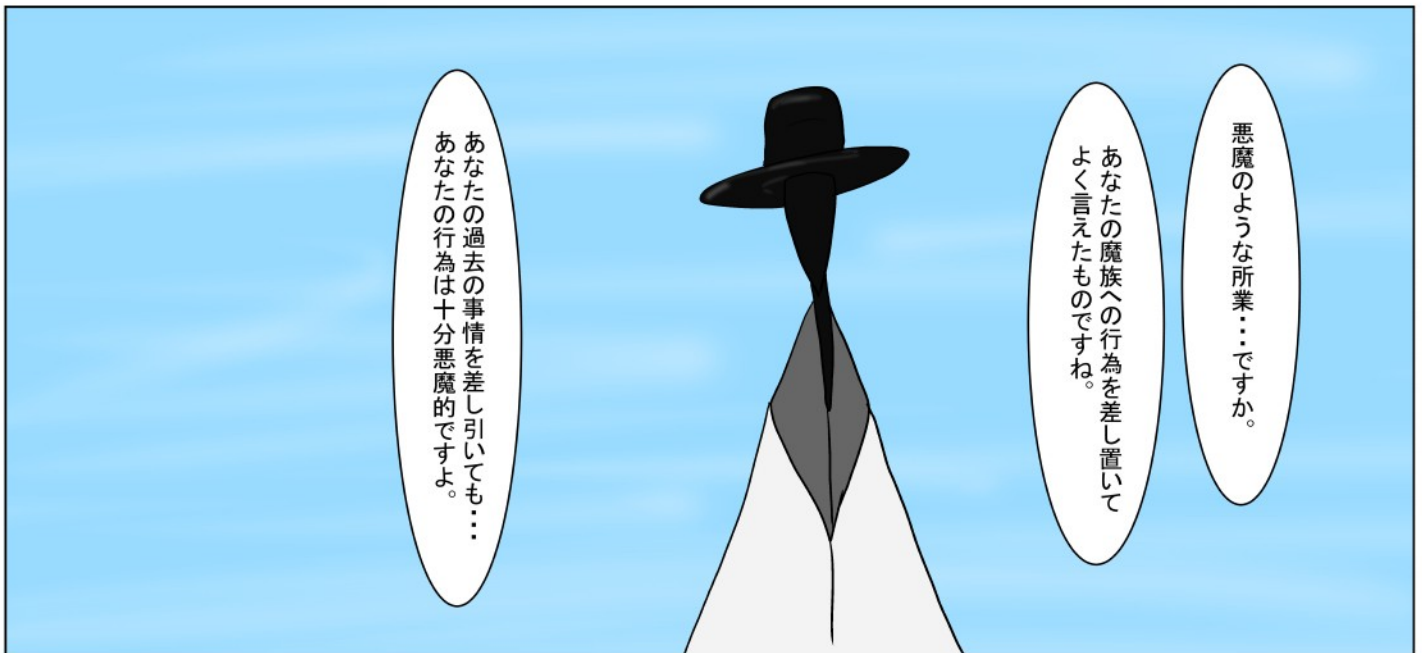
この質問はあなたへの最後の慈悲だと
理解したうえで答え頂きたい。

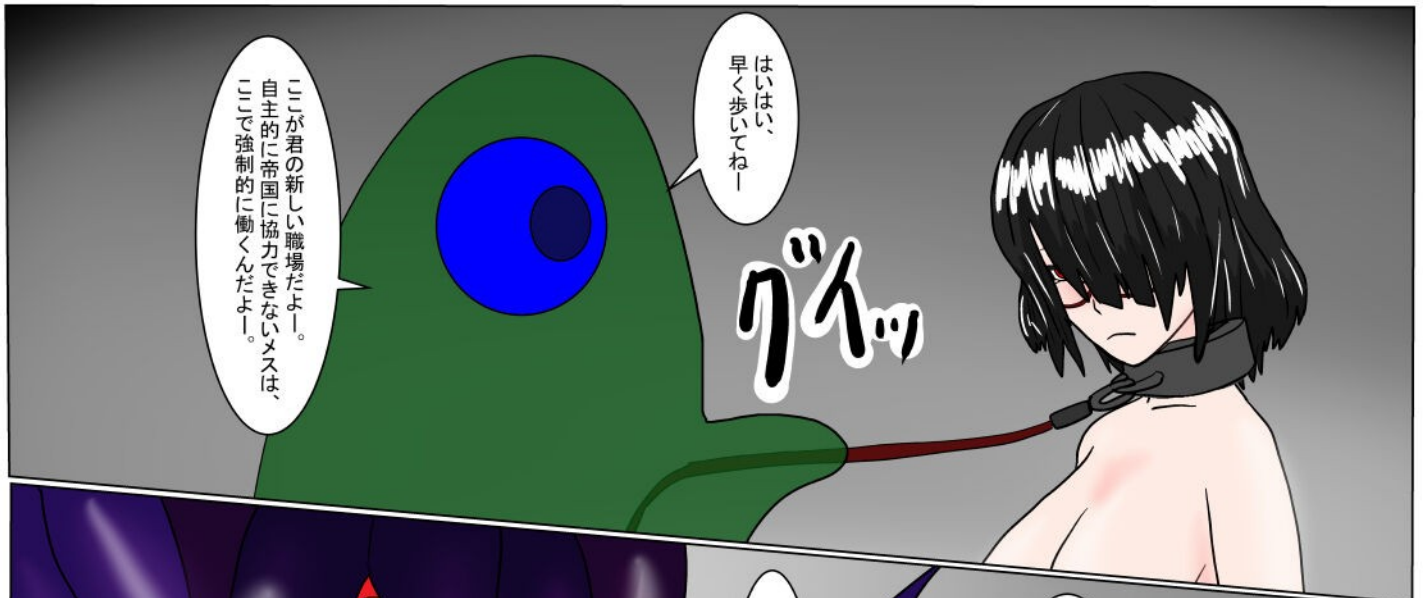
魔導帝国のために…
働いて頂けますね？

がが がが

へろへろ







ここが君の新しい職場だよ。
自主的に帝国に協力できないメスは、
ここで強制的に働くんだよ。

はいはい、
早く歩いてねー

グイッ



なんだ、
それが新しい苗床か？

ずいぶんと元気そうじゃないか。



廃棄処分一歩手前の
ゴミくすばかりだよ。

ここに墮とされるようなメスは
もはやまともな性奴隷にも
なれないような、



中々の美人さんじゃないか。
そんな元気な状態で
ここに放り込まれるなんて…
あんたいったい何をやらかしたんだ？



ま、何をしていたとしても関係ない。

これからは魔導帝国のために
魔物を産み続けるだけだからね...

ブルリ

グッ

ウネ

ウニョ



さあ...
体の開発は「のくらしいでいいが。」

そろそろ孕ませてあげようね。

んいっ!
んいっ!

なんだ、随分と使い込まれているな。
これなら遠慮はいらないか。

ブル...

ビュルルル

ゴボ

ゴボ
ゴボ

この触手を初めてですんなり受け入れられるなんて随分と丁寧な開発されているようだね。

2か月後。。。。

かふかふ…
大きくていい子が育ったじゃないか…
もう生まれるかな？
まだかかるかな？

さらに1週間後。。。。

ズルズル

がんばれ！
もう半分以上出てきているぞ！





いい子が産まれたね…

じゃあさっそく次を
仕込もうか。

星捧社は必ず私の救出に動くはずだ…

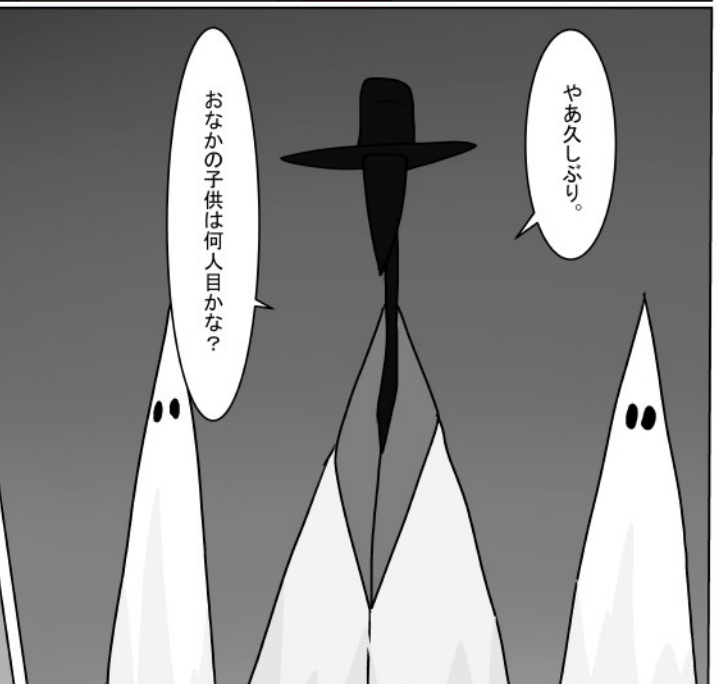
意志を強く持つて…

希望を失わなければ…

君を孕ませてみたい精液は、
まだまだたくさんあるんだからね…

必ず…!!

半年後。。。。





これは驚いた。

この部屋で半年も意識を断ち続けるとはね…

普通なら数日で思考力のない廃人になってしまうですよ。

あきらめず、希望を持ち続けることが意識を保つ秘訣かな？

だが残念。

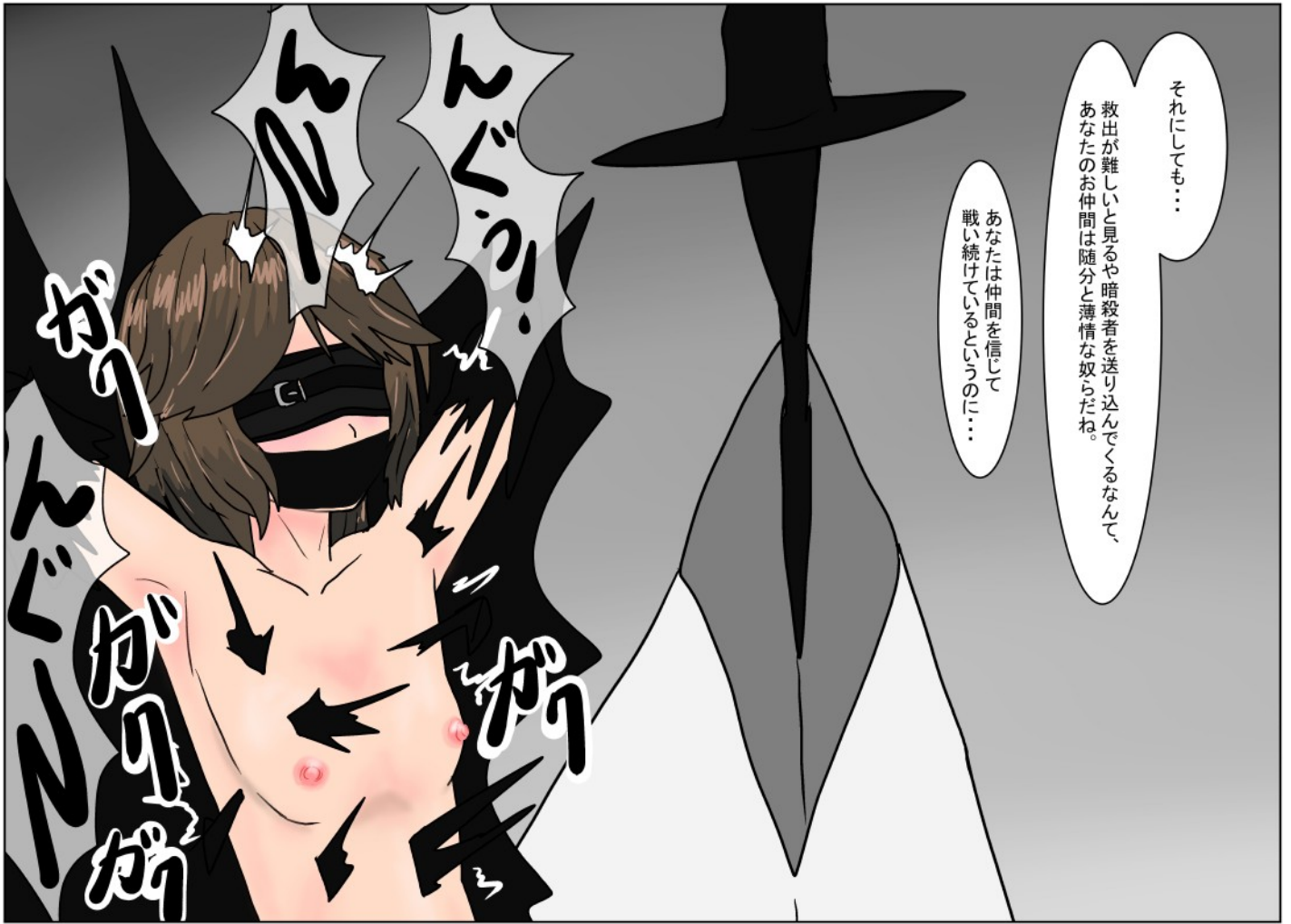
あなたの希望はすべて摘み取ってしまった。

…ウソだ。

嘘じゃない。星棒社からの助けは来ないよ。

ほら、この通り。

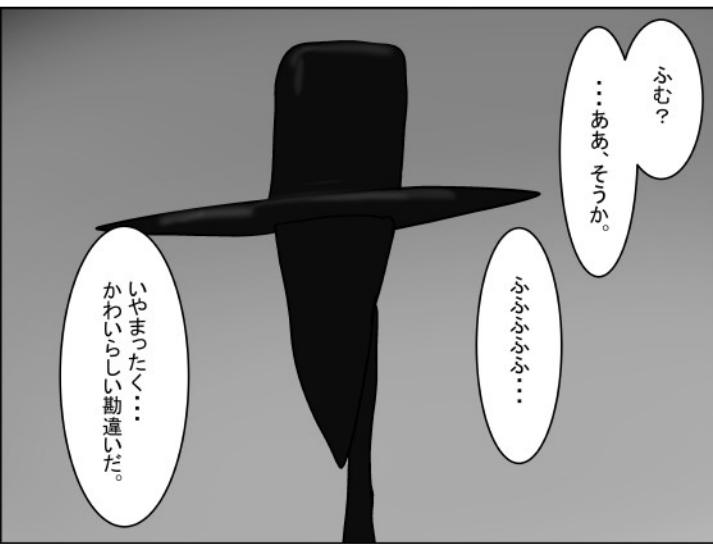
これが星棒社から送り込まれた者たちの末路だ。



それにしても…

救出が難しいと見るや暗殺者を送り込んでくるなんて、あなたのお仲間は随分と薄情な奴らだね。

あなたは仲間を信じて戦い続けているというのに…



ふむっ

…ああ、そうか。

ふふふふふ…

いやまったく…
かわいらしい勘違いだ。



必要なら味方に切り捨てられるのも覚悟の上だ。

どんな甘言を弄そうと、私は人類を裏切らない。

私の知識も、頭脳も、お前らには決して利用させない。

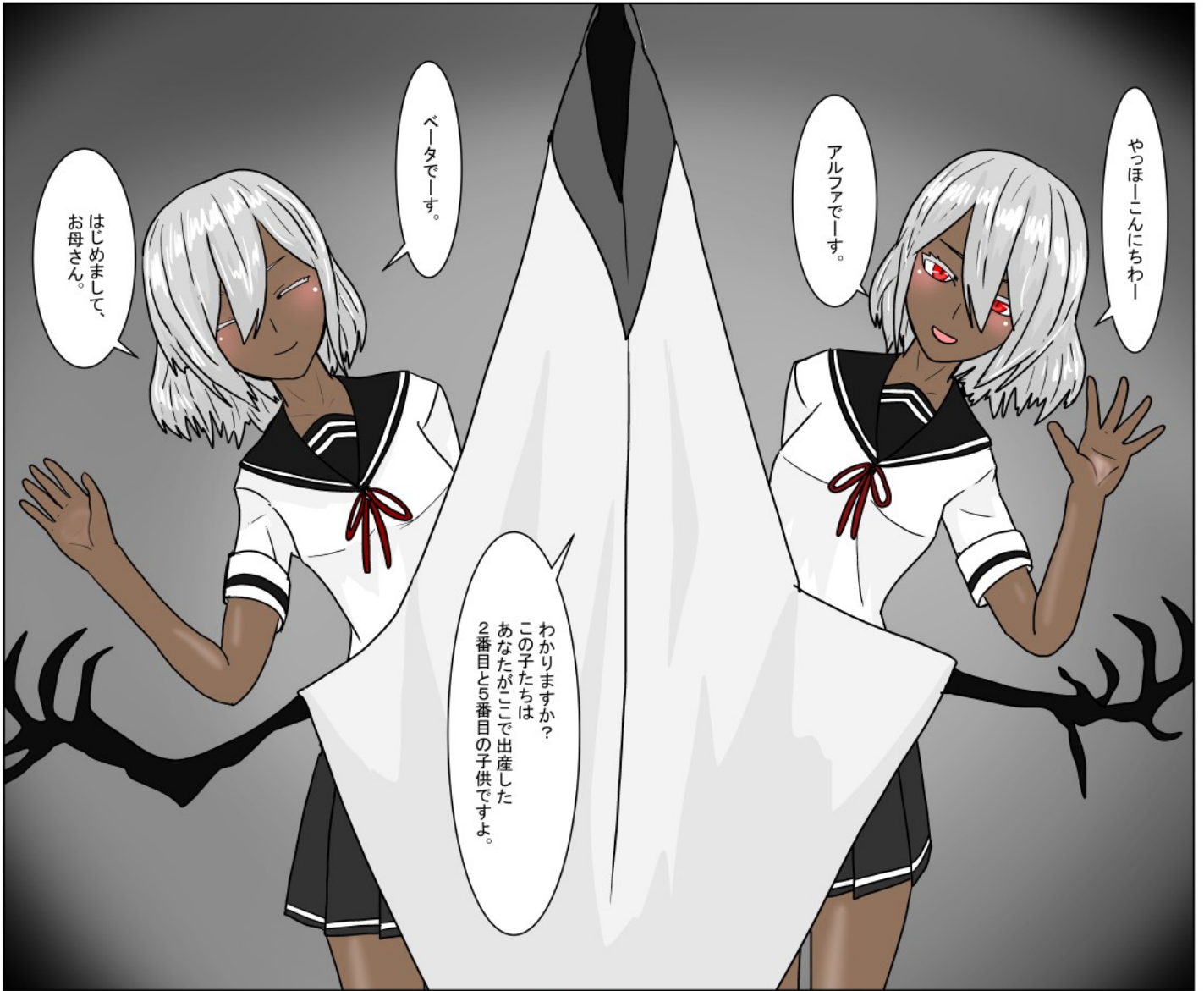


あなたの頭脳も、知識も、我々はとっくに手に入れているよ。

アルファ、

ベータ、

お母さんに顔を見せてあげなさい



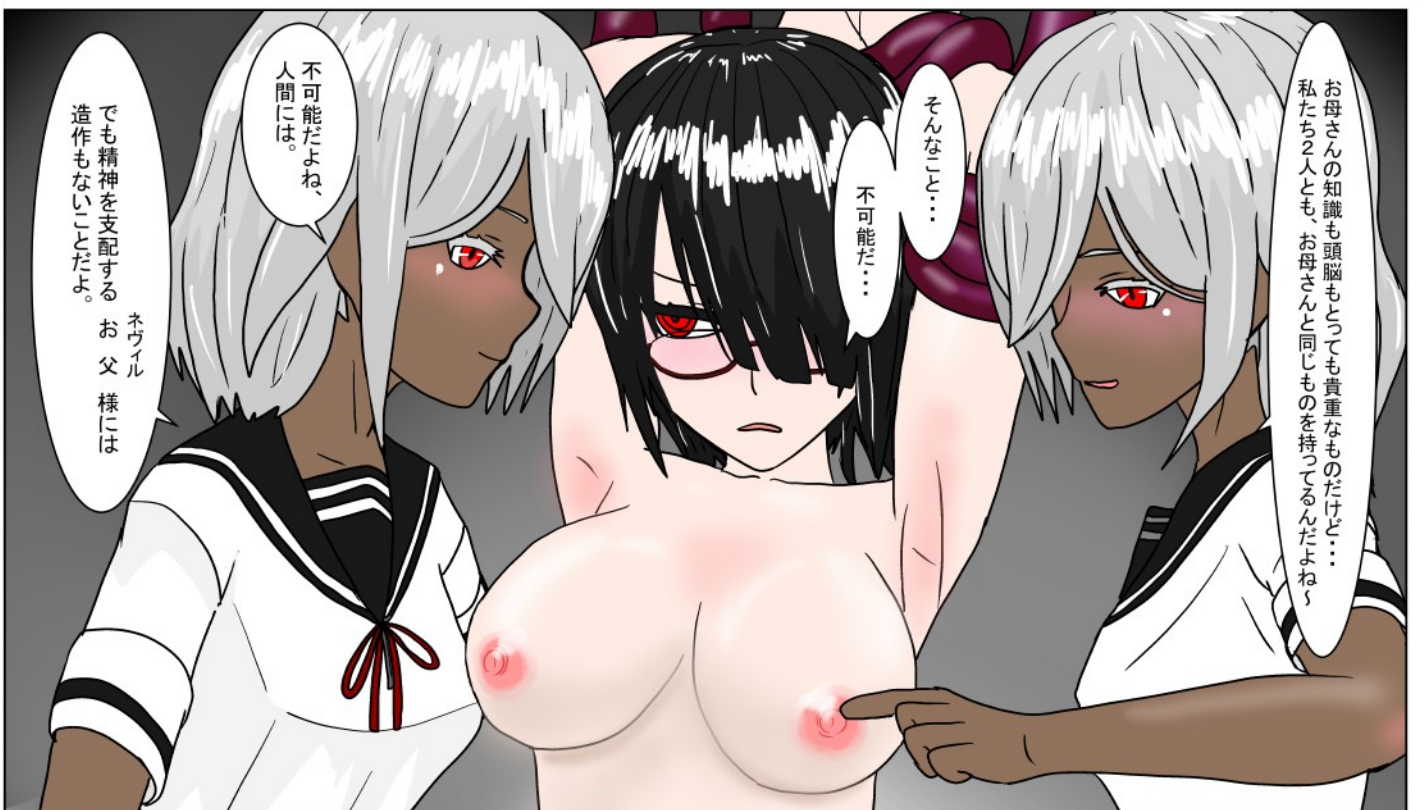
やっほーこんにちわー

アルファです。

ベータです。

はじめまして、
お母さん。

わかりますか？
この子たちは
あなたがここで出産した
2番目と5番目の子供ですよ。



お母さんの知識も頭脳もとっても貴重なものだけども...
私たち2人とも、お母さんと同じものを持つてるんだよね。

そんなこと...

不可能だ...

不可能だよ、
人間には。

でも精神を支配する お父様には
造作もないことだよ。

ネウール



おっすっ

へっ

つまりお母さんの脳みそって
もう特別でもなんでも無いんだよね

ここで飼われてる
苗床のメス達とおんなじで、

子宮と卵巣以外

完全に無価値

ん

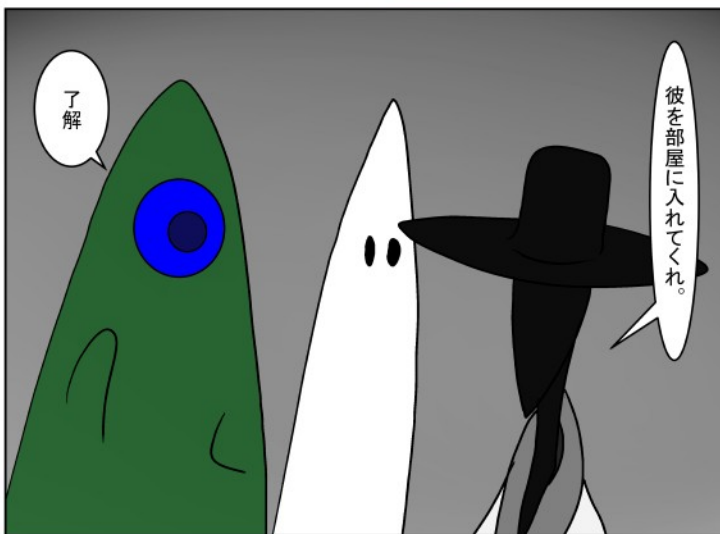
んんん



うそだ…

単なる脅しだ…

脅しだ…



了解

彼を部屋に入れてくれ。



まあ、我々にとっては無価値に近くとも…

あなたに大きな価値を見出している者もいるようだけどね。




まさか…

うそだ…

うそだ…!!





この度は私の花嫁を取り戻していただき
感謝いたします。ネヴィル閣下。

ジャザバ殿のお役に立て、
私もうれしいですよ。

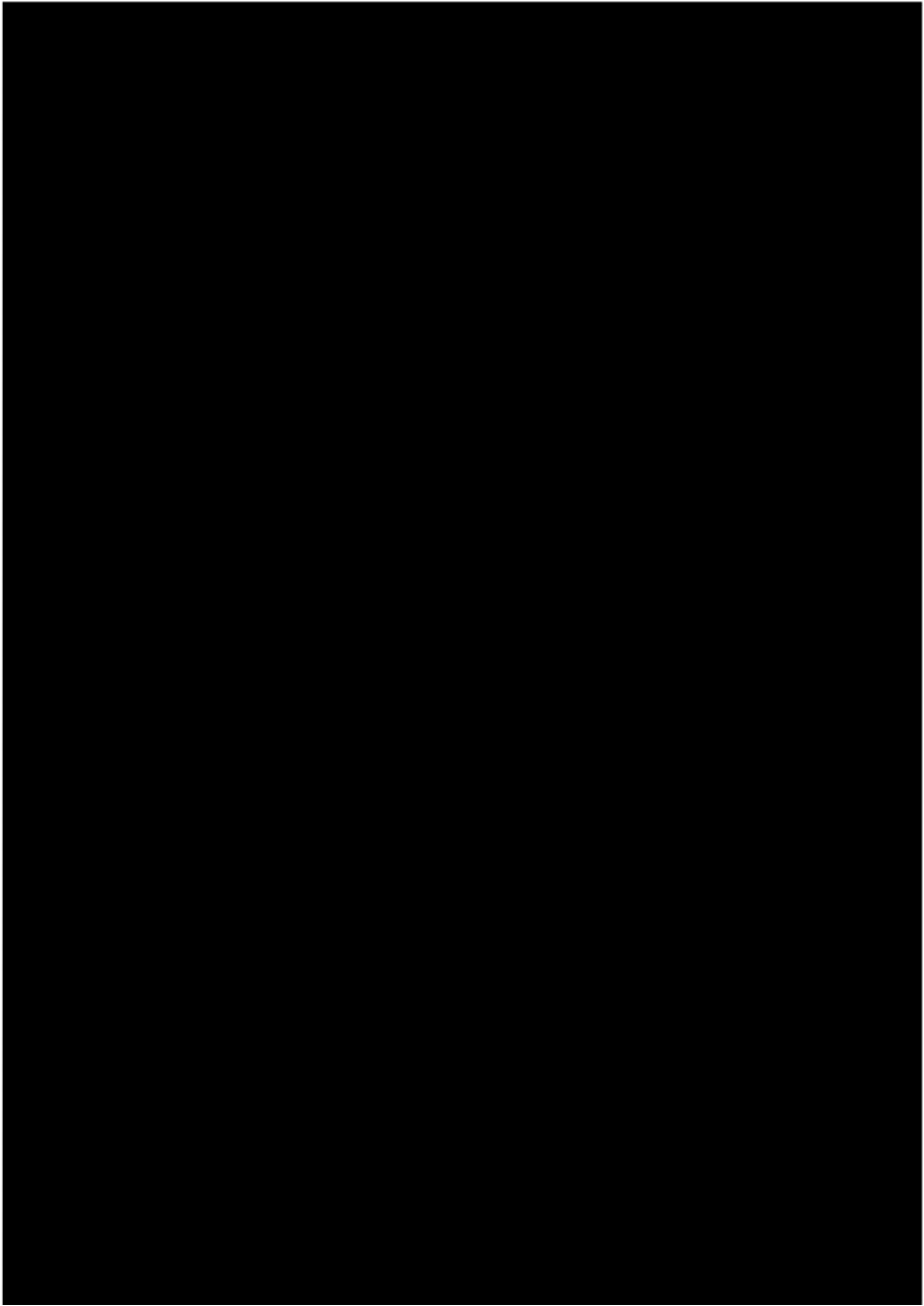
以前に一度逃げられているようですが…

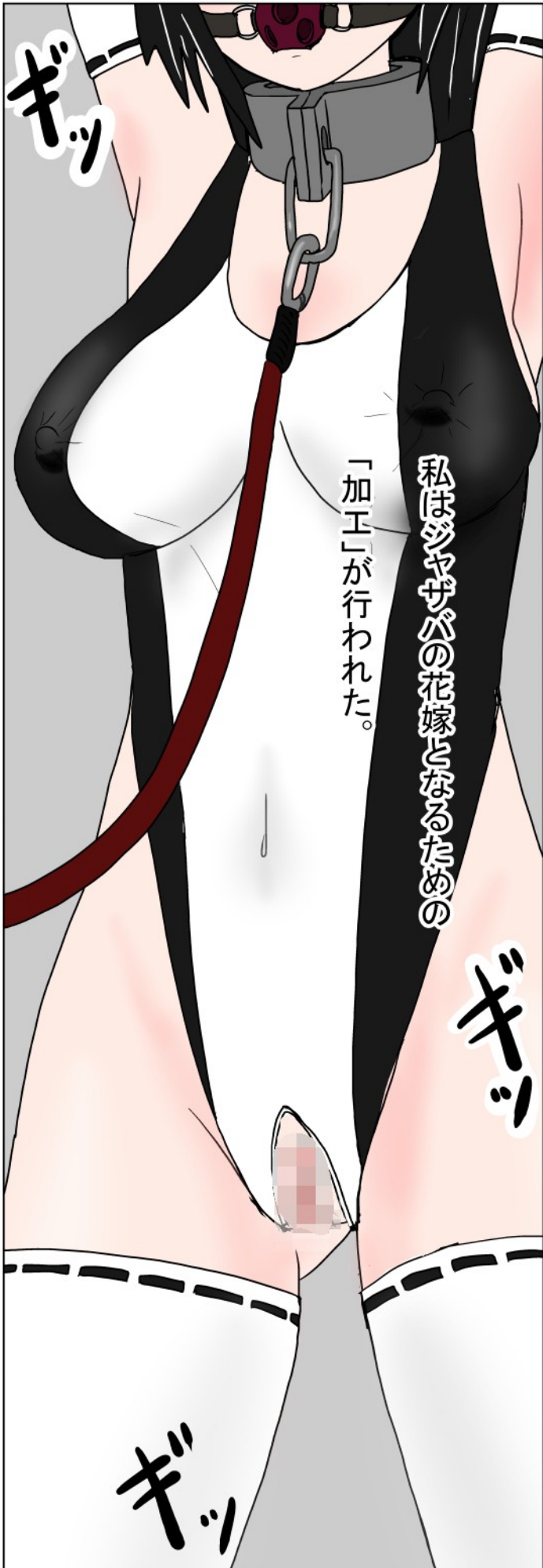
お恥ずかしい限りですが…
私の管理の至らなき故です。

今回は方が一にも逃亡を許さぬよう、
万全の管理体制で花嫁を迎える手筈です。

お手伝いが必要でしたら
何時でも声をかけてくださいね。

微力ながら協力させていただきますよ。

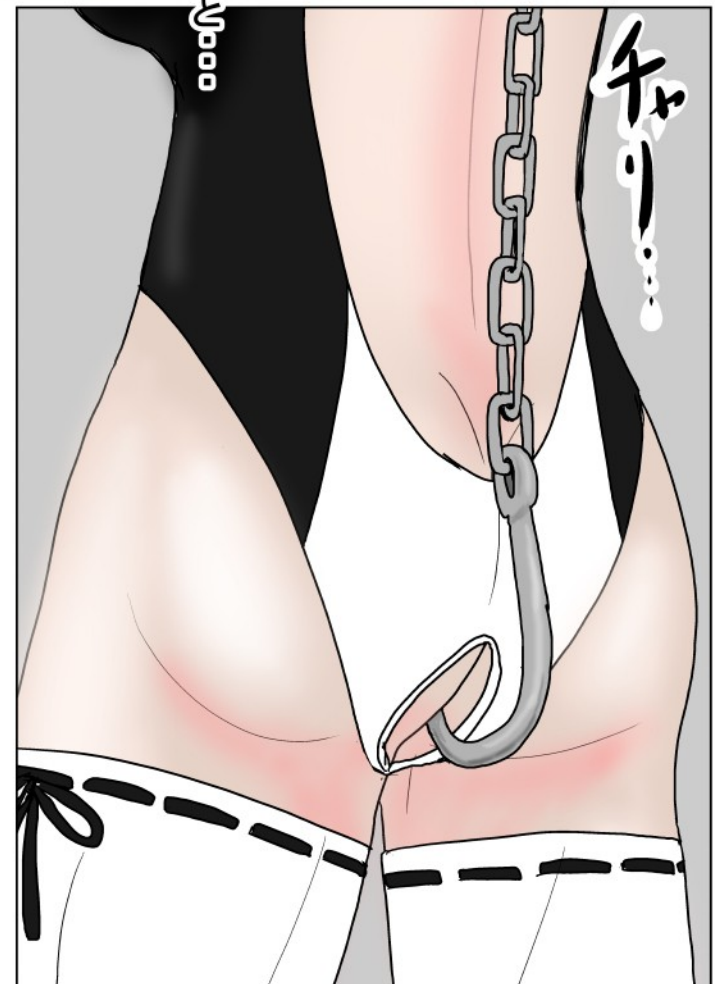




私はシヤザバの花嫁となるための
「加工」が行われた。



最後の出産がすんだあと。。。。



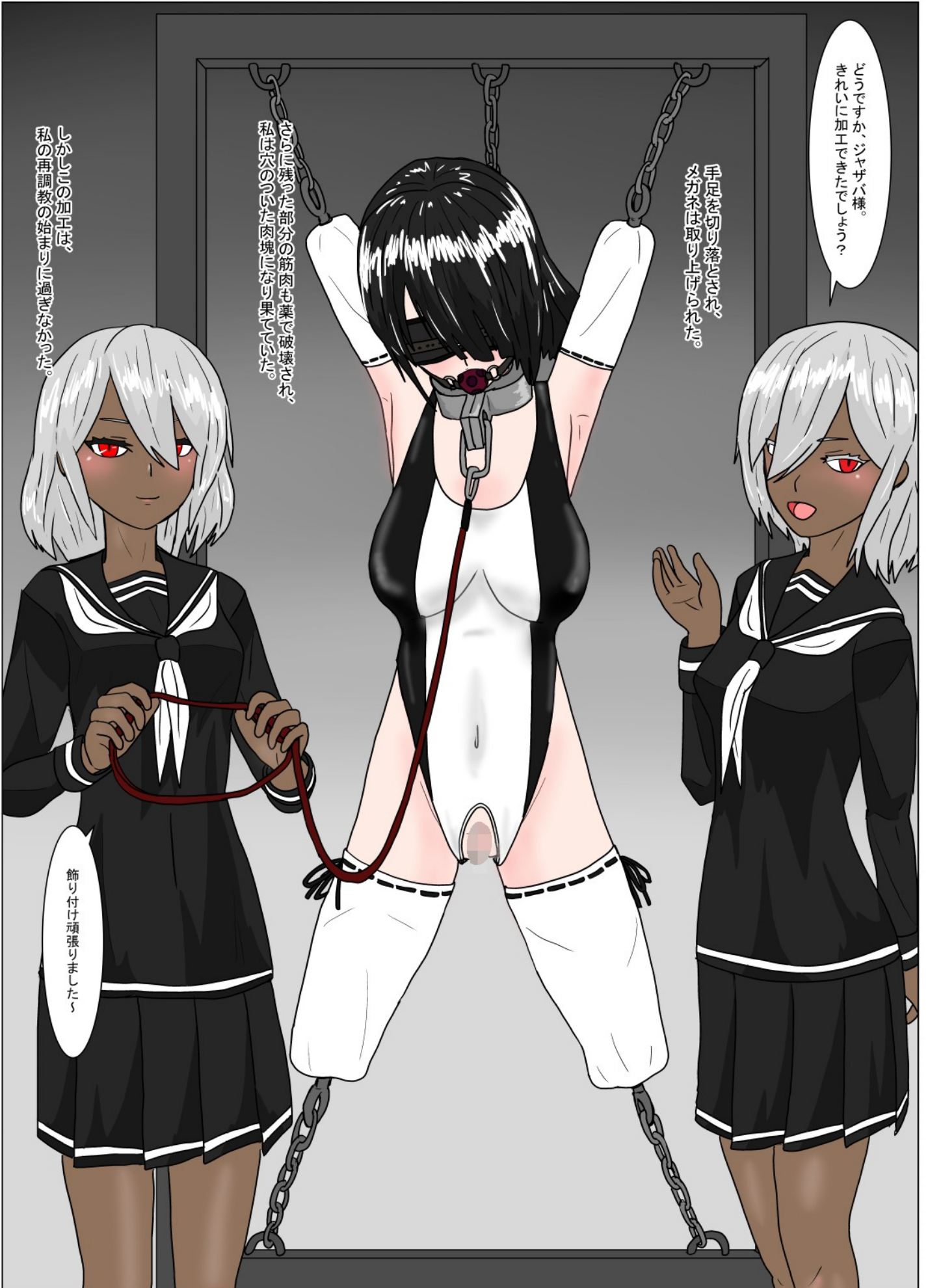
どうですか、ジャザハ様。
きれいに加工できましたでしょうか？

手足を切り落とされ、
ムカネは取り上げられた。

さらに残った部分の筋肉も薬で破壊され、
私は穴のついた肉塊になり果てていた。

しかしこの加工は、
私の再調教の始まりに過ぎなかった。

飾り付け頑張りました！





逃亡防止のための致命的ともいえる改造を施され、
抵抗力を完全に奪われた私は、
シヤザバの行為をただただ受け入れるしかなかった。。。



シヤザバ
の
行為
を
ただ
ただ
受け
入れ
る
し
か
な
か
つ
た
。。。

シヤザバ
の
行為
を
ただ
ただ
受け
入れ
る
し
か
な
か
つ
た
。。。

シヤザバ
の
行為
を
ただ
ただ
受け
入れ
る
し
か
な
か
つ
た
。。。

シヤザバ
の
行為
を
ただ
ただ
受け
入れ
る
し
か
な
か
つ
た
。。。



さあ、これからたっぷり可愛がってあげようね...



ほんとうに年がりの柔らかな体でも、
もはや私に安らぎを与えてはくれないぞ...
ドサザクの体が私に覆いかぶさる。

体中を這い回る手と、
全身を圧迫する重みが、
これから始まる凌辱の激しさを予感させた。

激しく、だけでも恐ろしく丁寧だ……。
ジヤザハは私の体を隅々までまじまじと……。

ネト……

3対の手コエが、恐ろしく愛撫されて……。
皮膚の表面を撫でられる……。

グーンッ

ハッ

は、

は、

は、

はあ、

捕虜になって以降、延々と施された媚薬調教の影響か、
おぞましいはずの愛撫によって、
私の体は確実に昂り始めていた。





肌の表面にツワリと痺いた快感、
ジャザバは丁寧に舐め取っていく。

舐められた部分から広がるもどかしい快感が、
また別の場所からの発汗を促していく...

たっぷり時間をかけて、
ジャザバは私の体の隅々までを舐めとり、
味わい尽くしていた。



ジヤザが私を犯す。

私の初めてを激痛とともに奪ったジヤザが再び私の膣内を蹂躪する。。。

あの頃は苦痛しか感じなかったが、私の体が成長したからか、はたまた1年にわたる「調教」の成果か。。。

苦痛よりもむしろ、快感を多く感じ始めている私がいち。。。

ぐちゃぐちゃ

ぐちゃぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ



諦めからか、
私ほほとんど無意識のうちに
彼のキスに応じ、
臭くてたまらなかったはずの
彼の唾液を、
一生懸命に嚙り上げていた。

ペニスを激しく打ち込まれながら、
キスを強要される。



獣のような体勢で、
背後から犯される。
上半身がペニスに押し付けられ、
肺が潰れて呼吸がままならない。

酸素を求めて必死に喘ぐ私の様子が、
彼をますます興奮させた。

彼のペニスが腸壁と背骨を容赦なくえぐる。

すさまじい圧迫感とわずかな痛み、
そして堪えようのない快感の波が私を支配する。

彼は眼前にさらけ出された
私のアナルをときおり穿り回す。
羞恥心が私の昇ぶりをさらに押し上げる。

うぐっ

うっ

うっ

ぐっ

くっ

ゴッ

ゴッ

ゴッ

ゴッ

ゴッ

ゴッ





気付いたころには私は、
はしたなく嬌声を上げる。
ただのメスにすぎない。

死ぬほど憎んだ仇の前で、
私は浅ましく発情する淫魔のような、
恥ずべきメス豚になり果てていた。



ゴッポ

カポ

ゴッポ

ああ、かわいいディアナ…

やはりお前は最高だ…

最高にかわいく、
最高にいやらしい、
私の花嫁だ…

これからもたくさん可愛がってあげるからね…

げっ
ほっ

えっ
ほっ

いっ
ほっ

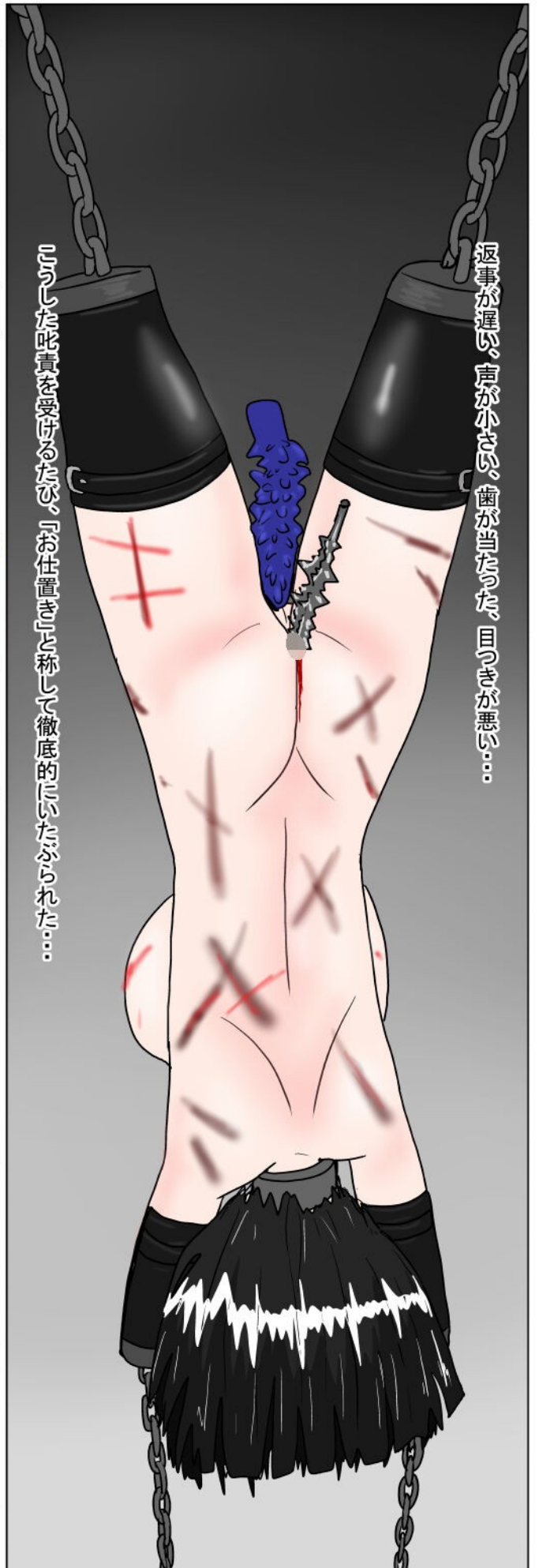
ゴッポ

ゴッポ



恋人や夫婦のような甘い情事を重ねる一方で、
彼は事あるごとに私に難癖をつけては
拷問まがいの調教を施した……





こうした叱責を受けるたび、「お仕置き」と称して徹底的にいたぶられた。。。

返事が遅い、声小さい、歯が当たった、目つきが悪い。。。





おや？
そんなに気持ちよさそうな声を上げて…

すっかりドMのメス豚になってしまったね…

これではお仕置きにならないなあ

あぁ♡

あぁ♡
あぁ♡

あぁ♡

ゴッ

ゴッ

ゴッ

ガリガリ

「お仕置き」の内容は徐々に過激さを増していった...



お前の好きな場所を
いじめてやるから、
言ってみろん。

次はどこに重りを
吊るしてほしい？



膣を通り抜け、子宮までを内側から押し上げる杭の圧迫感で呼吸が上手くできない。体の震えが止まらず、血の気が失せた顔で許しを請う私を、彼は笑いながら2時間も放置し続けた。

彼より先に眠った(気を失った)ことの罰として、巨大な杭に挿刺しにされる…

ガタガタ

ガタガタ

ミニ

ギチ

ミニ

ミニ

ミニ

ミニ

ミニ



フェラチオの際、
舌の動きがぎこちないと罵倒された。

私は「ペニスが大きすぎて舌が動かせない」と
訴えたが、彼はそれに対する答えとして、
恐ろしい形状の器具で私の口内を蹂躪した。

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

数ある「お仕置き」の中で私が一番恐れたのは、
触手で満たされた「お仕置き部屋」への監禁だった。

「めんなさい…」

「めんなさい…」

許して…

嫌なんです…!

この部屋だけは…!

ズン

ズン





魔人ネヴィルから尋問を受けたとき...
ネヴィルが「説得」だと言っていた意味が、
今更ながら「正理解」のまゝ。

このお位置き部屋の触手達は、
それほど面白くないらしい。





数日後、
お仕置き部屋の扉が開かれたとき、

心の奥底に燃っていた反抗心も、
怒りも、何もかもが絶頂の余韻と
快楽への渴望で塗り潰されてしまった。



シヤザバ自身による丁寧で徹底した愛撫が繰り返され。。。。





私の中の恐怖、復讐心、
反抗心や怒り……
ジャザバに対する負の感情は、
玉ねぎの薄皮をはがすように、
1枚1枚丁寧に剥ぎ取られ……

最終的に私の意識は、
快感を貪る欲望と、
彼に対する服従心だけが残された……

さあ、ゆっくりと息を吸い込むんだ。

調教や拷問と並行して、
大量の媚薬や麻薬が投与される。

ゆっくり、大きく吸い込んで…

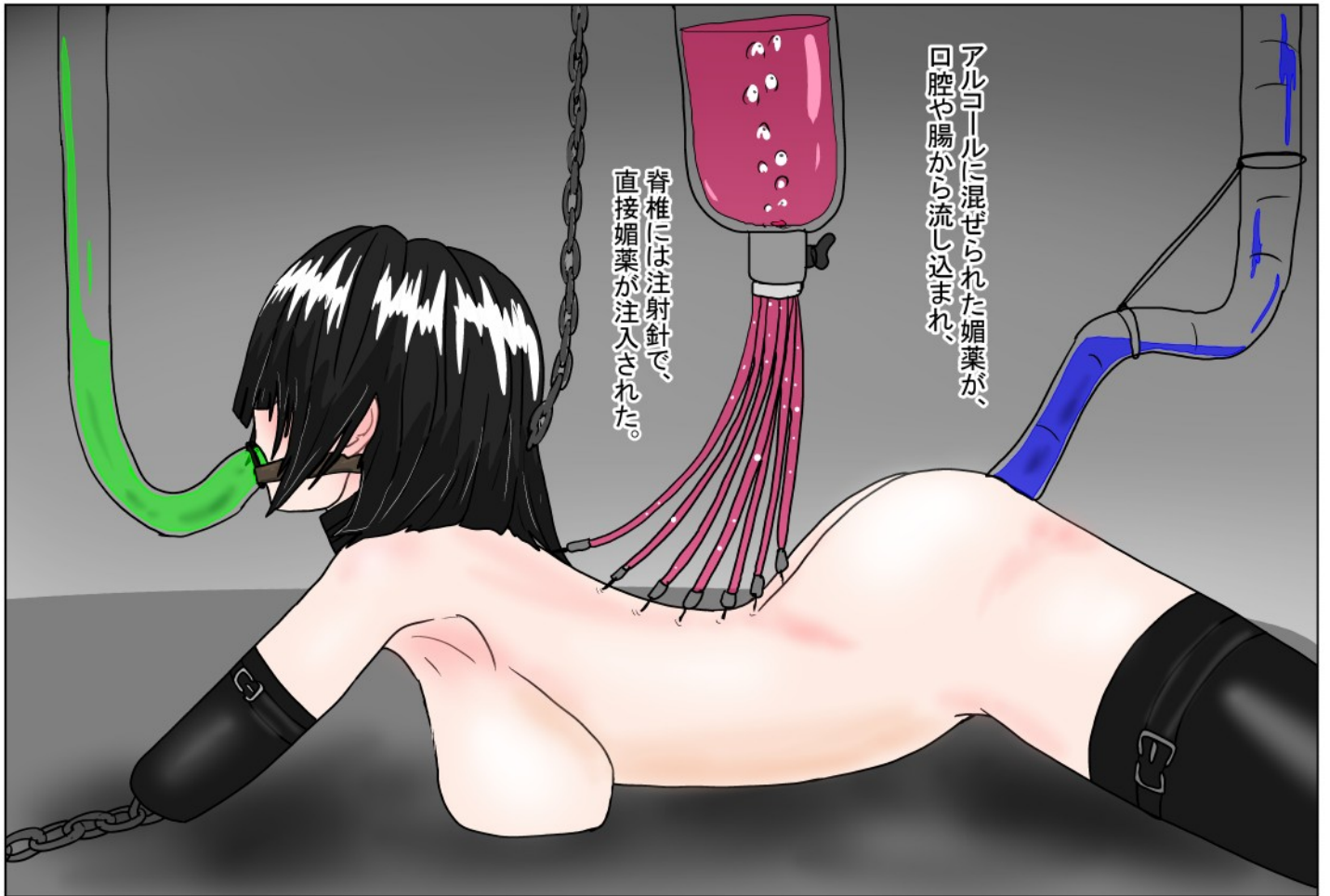
ふう、

う、

ふう、

ふう、







快樂に逆らわなくなった私を、
彼はさらなる情熱でもって翫り続けた。

様々な衣装をあてがわれ、
私は彼のあらゆる要求に応えるようになっていた。



ぐっ
ぐっ

ぐっ
ぐっ
ぐっ
ぐっ



かわいいよ、ディアナ...

この衣装もとても似合っているね...



んん。

もっと声を出せ。

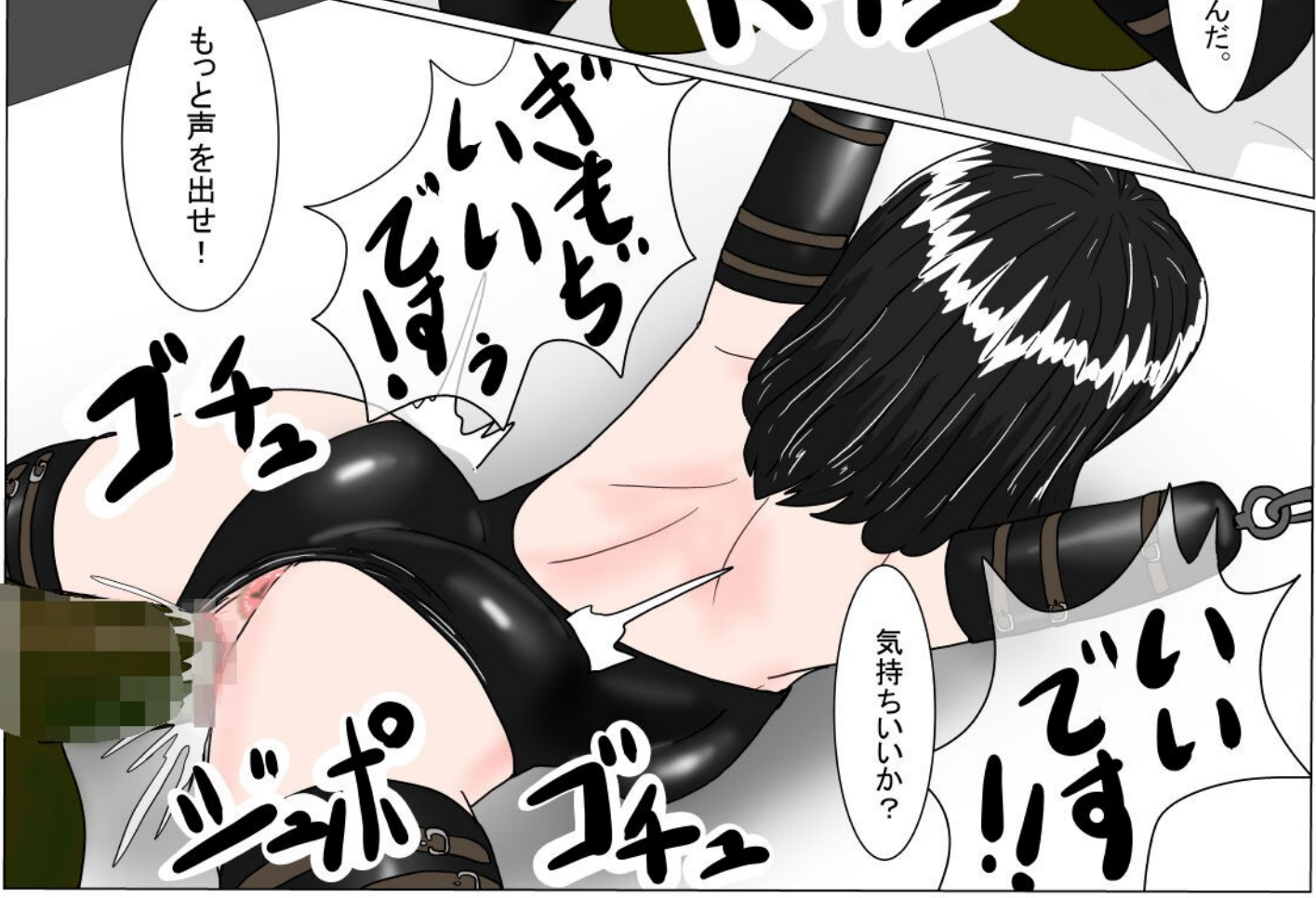
もっと感じるんだ。

あー!

あー!

グチュ
グチュ

ドチュ



もっと声を出せ!

いいもち
びいっ

気持ちいいか?

びい
びい

グチュ

ポッ
グチュ



私は...

私は...

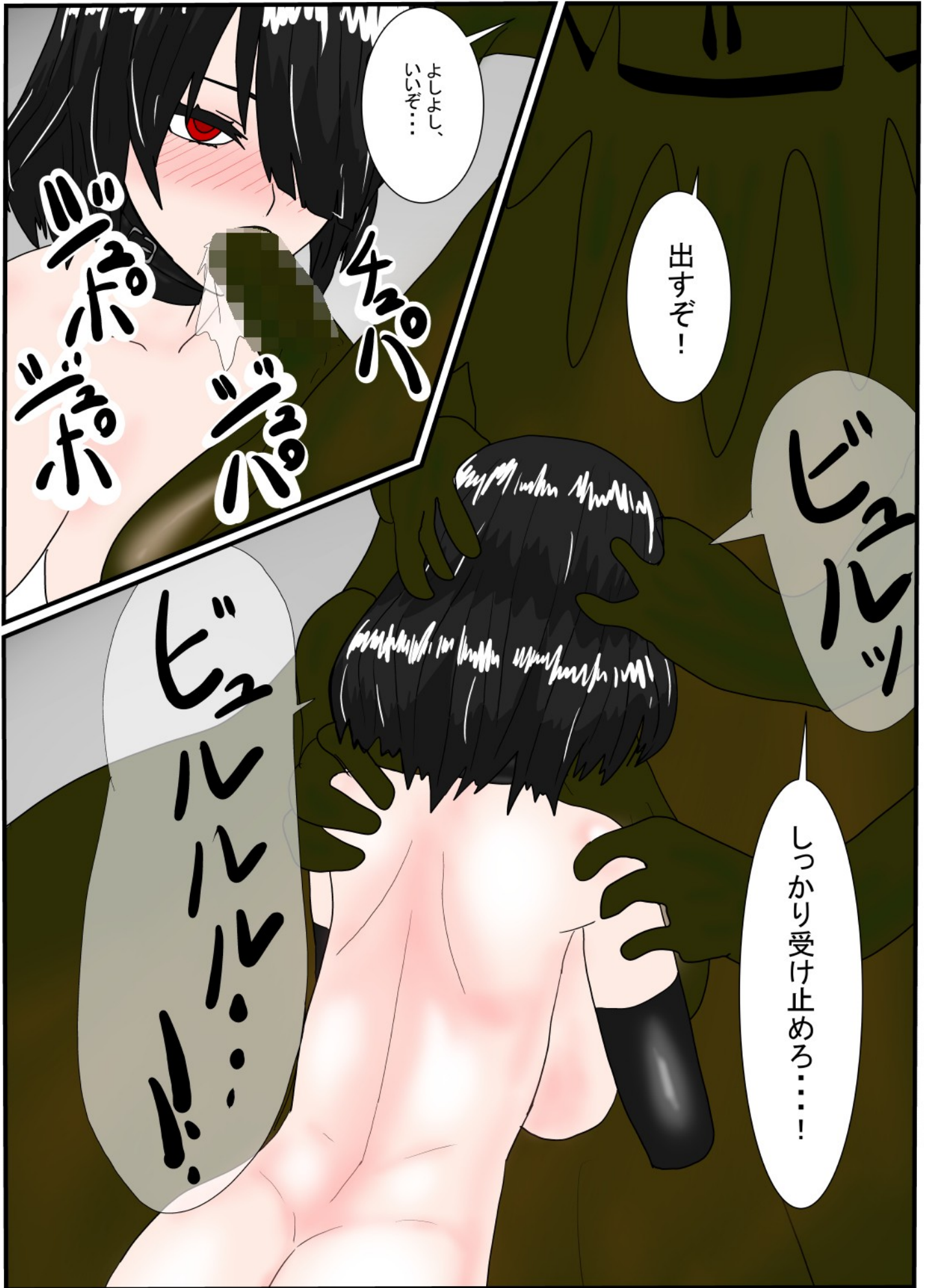
もう...

べ
ちゅ
る

じゅ
ははは
ははは

じゅ
るる





4346,
5544...

出すぞ!

しっかり受け止める...!!

ハッハッハッ

ジュジュジュ

ジュジュジュ



かわいいディアナ：
本当に良い子になったね…

A no ii

70チャ

70チャ

pecho

70チャ



今日もたつぷりと可愛がつてあげようね

さあ、

あ

あ



はい...。

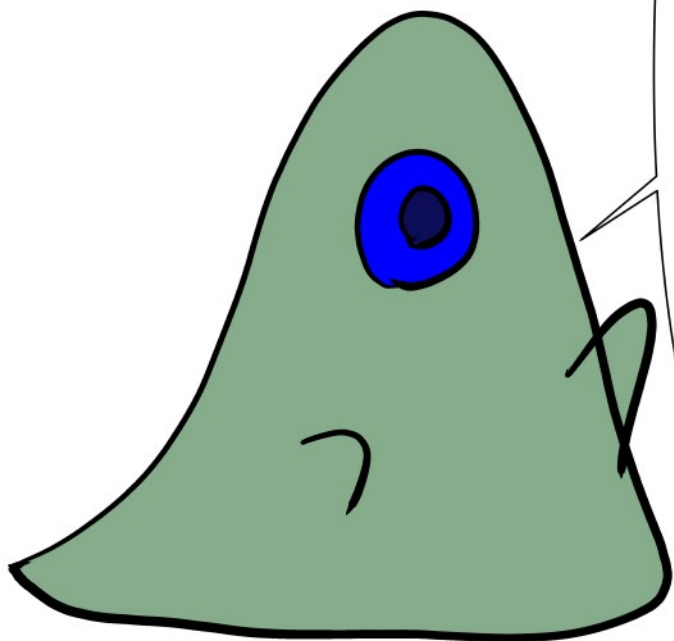
たくさんいぢめてくださいね...

旦那様♡

フィン.

魔導帝国に潜入した
星捧社女工員の末路だよ

次ページからおまけ漫画



スパイや工作員は、身分が発覚した場合、現場判断による即時処刑が通例となるが、確保したのが情報機関や治安組織だった場合は厳しい取り調べが行われる。その際の尋問方法は、「処刑される方がまし」と言われるほど苛烈になることが多い。

彼女は、魔導軍の前線部隊や国境警備部隊を突破して潜入できるほど優秀な工作員であったが、帝都中枢を防備する中央防衛軍の情報保安隊に拘束された。

逃亡を防止するために眼球を抉られ、四肢を切り取られた後、「尋問」と称して体の損傷をまるで気にしない暴力が振るわれた。

尋問の開始から一時間もたたないうちに、汚い言葉で魔族を罵倒していた回からは、悲鳴と懇願しきれなくなった。

グエグエ!

グエ!

グエ

グエ!

あ!!

がああ!?

あああ!!

助けて!

全部しゃべるから!

お願い!!



精神を操る一部の魔族にとって、人間の脳内に隠された情報を取り出すことは特に難しい仕事ではない。

厳しい鍛錬によって筋力や精神力を鍛え上げても、脳に直接流し込まれる微弱電流と神経伝達物質は、隠された情報があつた瞬間に剥き出しにする。

「しゃべるくらいなら舌を噛んで死ぬ」
威勢のいい啖呵を切った彼女は、結局、自身の知るあらゆる軍事情報や星捧社の内部事情を、余すことなく吐き出していた。



情報保安隊の管理する地下牢に、
オブリエが1つ追加された。
手足を失った2人の女が、
互いの口を相手の肛門に
接続した姿で横たわる。

情報を絞り尽くされた彼女らに、
もはや工員としての価値はなく、
最低限の水と栄養素を補給されながら、
地下に連れてこられる哀れな犠牲者たちの
恐怖心を煽るために生かされ続けている。

